千葉市内野第１遺跡出土の石棒・石剣

田 中　英 世

はじめに

内野第１遺跡は、平成８年に調査終了し、報告書も刊行された。石棒・石剣の整理終了に伴い、これを公表し検討を加える。なお、報告済は再録を避け、次のように記す（報告　1－1＝報告書第２分冊第１図１の遺物）。また、調査時の遺構NOを併記する（A －住居　C －土壙）。

１．内野第１遺跡における石棒・石剣の出土状況

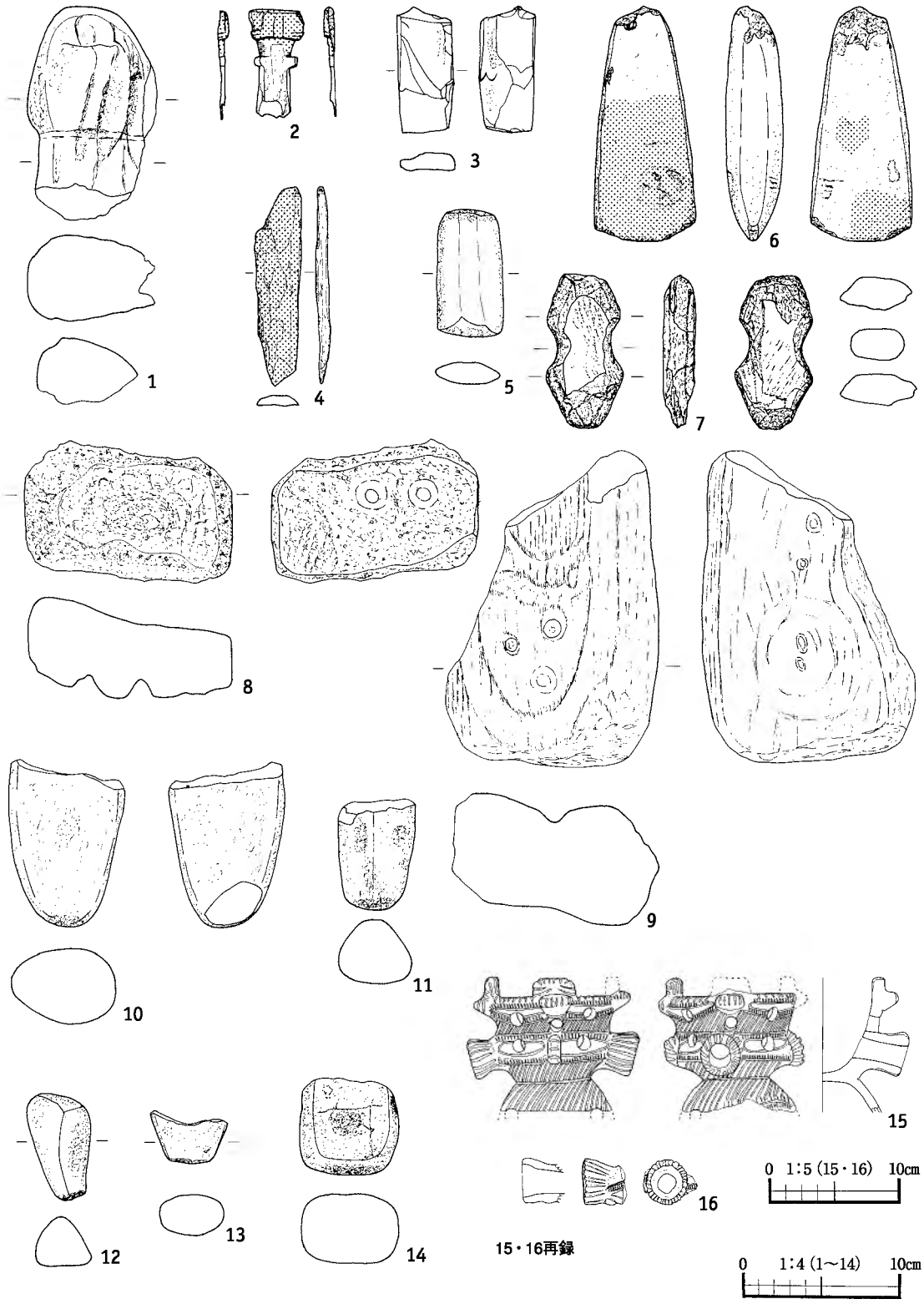
内野第１遺跡出土の石棒・石剣は267点（第１表）で、内25点が報告書に掲載されている。

J-16（第２・３図・A-125）：方形を呈する安行２式期の住居で、黒色土中の床面に、全面焼土の堆積が認められた。床面から有頭石棒１点（1）・石剣の破片（2～4）・砥石１点（5）・大型磨製石斧１点（6）・石皿２点（8・9）・敲石４点（10～14）・磨石１点（14）・打製石器１点（7）の他に、異形台付土器１点（15）・同注口部１点（16）・耳飾１点が出土している。石剣は同一個体で、被熱・赤化し、20点余の細片が縦に剥離している。６の刃部と７も高熱により赤化している。７は、岡本孝之氏により「白河型石斧矢野下型」と呼称され、独鈷石の範疇に捉えられ、井野長割遺跡や寺野東遺跡でも出土している。

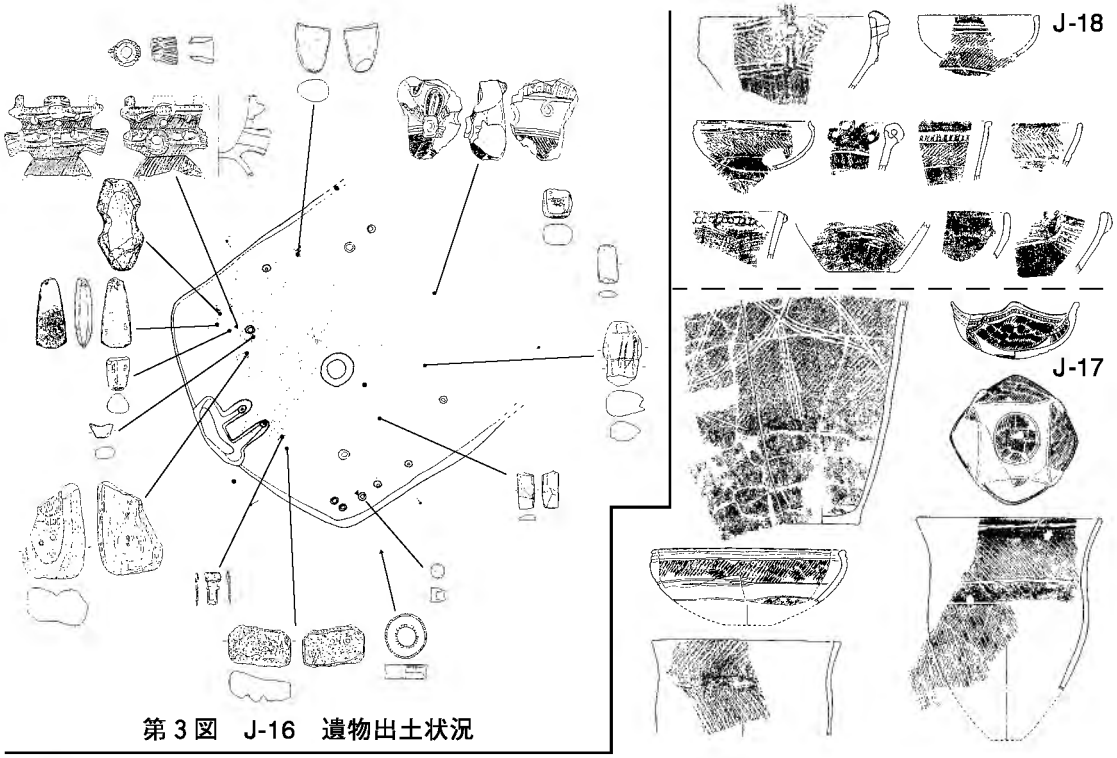
J-17・18（第４図・A-177・184）：J-17は方形を呈する加曽利B式期の住居で、砂質土上の床面壁際に焼土の堆積が認められ、多量の土器の他に土偶３点と、石剣２点（報告　284－7・285－25）が出土している。J-18はJ-17の北側に重複した加曽利B式期の住居で、セクションベルト除去時に焼土と壁が確認されたが、南側のプランは不明である。J-17の北側の焼土が炉に該当する可能性がある。石剣１点（報告　284－6）と凹石転用の石棒１点（報告　284－5）が出土し、山形土偶の最終段階（報告　300－149）と木菟土偶の初期段階（報告　293－34）が南側から出土している。３点の石剣は、完形の１点（報告　285－7）と同一形態を有する。

J-20・21（第５図・A-383～385）：重複する住居で、J-20は炉の数から４軒以上の住居が想定される。覆土の黄褐色砂質土下に、直径10mの円形焼土プランが検出され、晩期の遺物が出土した。これに対応するのが炉８と思われる。更に、炉９と炉10に対応する円形と方形の住居が東側に、炉７に対応する円形の住居が西側に想定される。炉10の脇から９号人骨が、炉７の下から山形土偶（報告　294－52）が出土した。J-21は南側の方形プランを呈する曽谷式期～安行１式期の火災住居で、炉１が対応する。石棒・石剣は、J-20から４点（1～4）、J-21から４点（6～7）出土している。７の石棒は21V-7cの２点とJ-21の小片１点が５m離れて接合したもので、21V-8d（第21図15）と同個体と思われる。被熱し先端部を打ち欠いた痕跡がある。

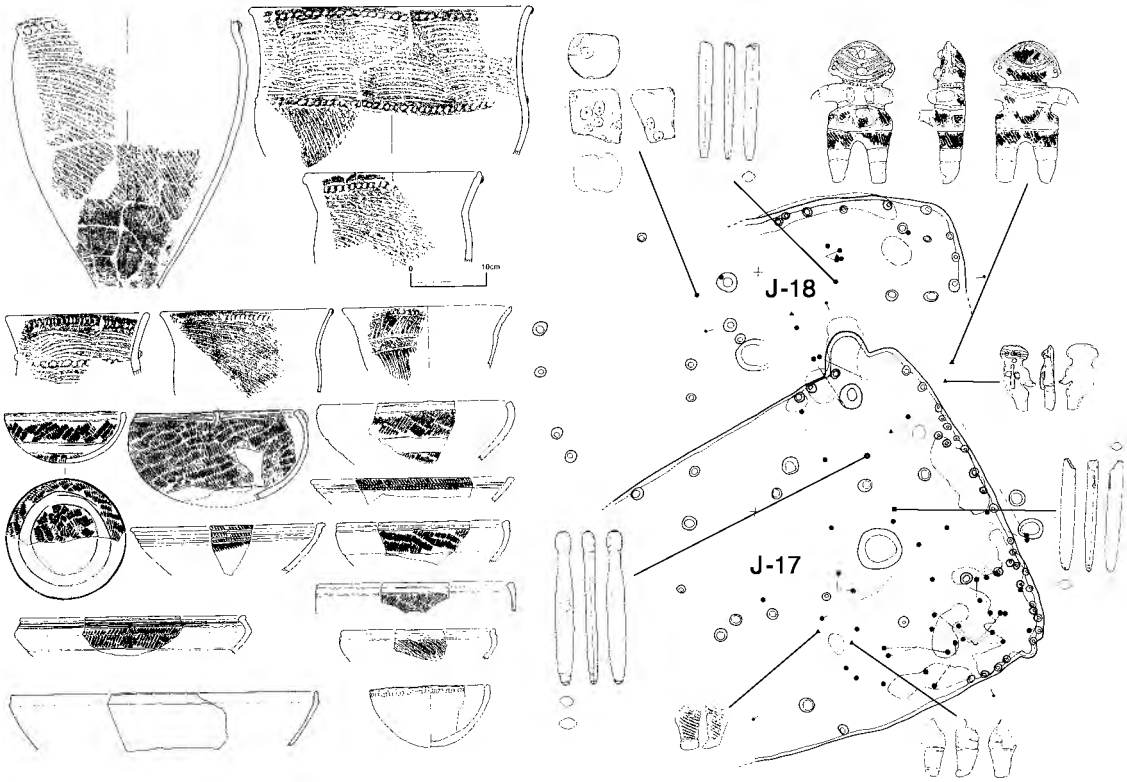
第１図　内野第１遺跡遺構配置図



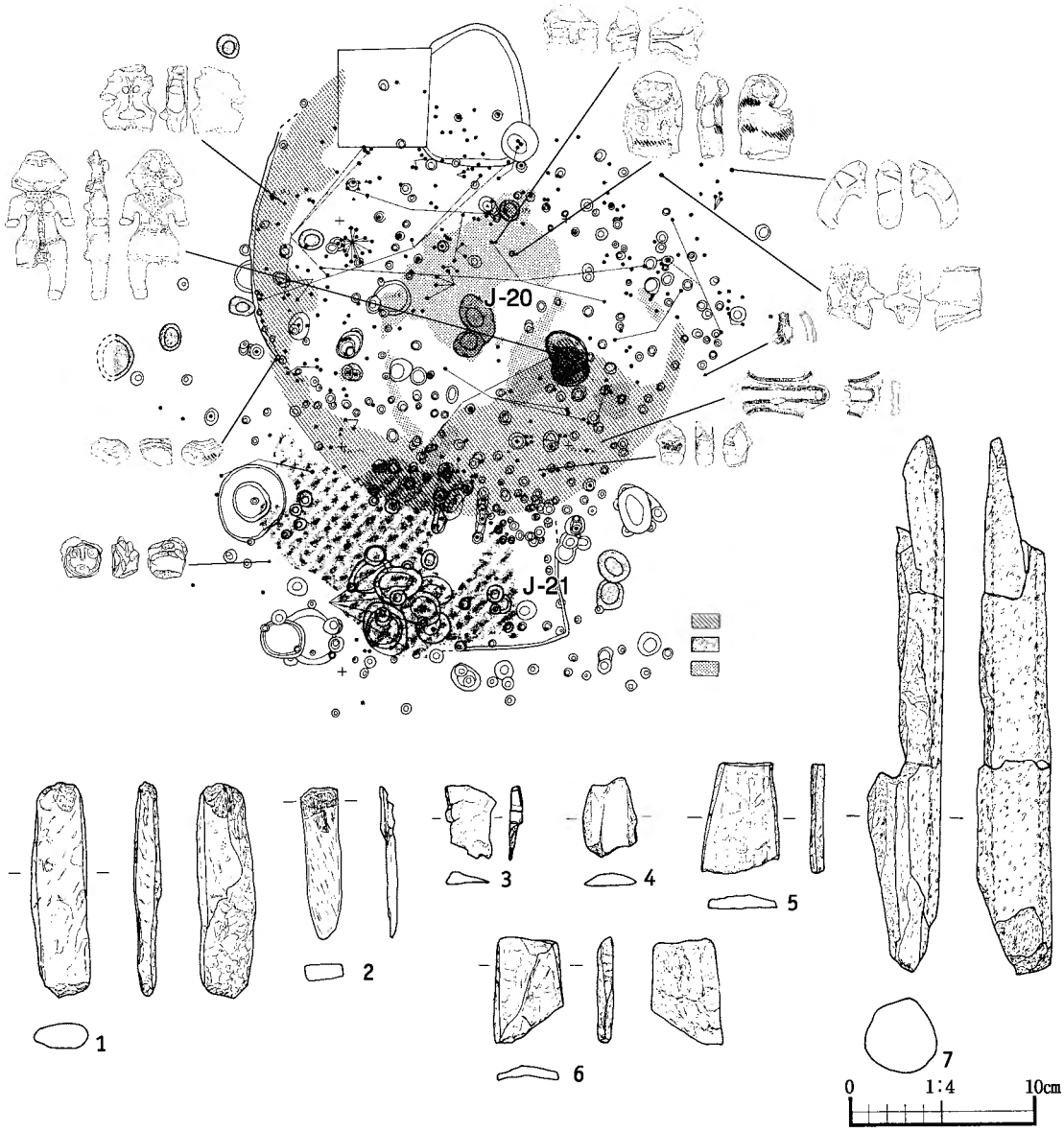
第２図　J-16（１～16）　出土遺物



第３図　J-16　遺物出土状況



第４図　J-17・J-18　遺物出土状況



第５図　J-20（1～6）・J-21（7）　出土遺物と遺物出土状況

J-45（第６図・A-146）：曽谷式期の亀甲型の住居で、入口北側から大型石棒が１点倒れた状態で出土した。木菟土偶の初期段階のもの（報告 304－228・293－29）も出土している。

J-55（第７図・A-541）：方形を呈する曽谷式期～安行１式期の住居。重複する土壙内から10号～12号人骨が出土。石棒は炉の東側から頭を南に向け倒れて出土した。大型で、側面の一部に平坦面があり、下断面に煤による黒色化が認められ、樹立していた可能性がある。

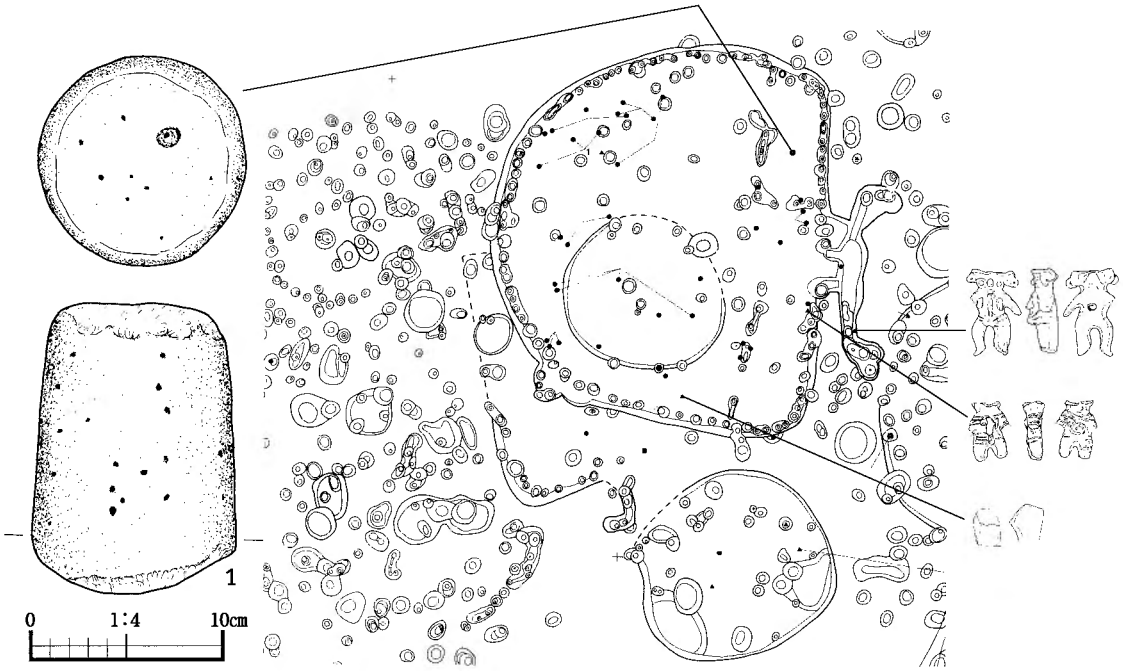
J-59・60（第７・８図・A-523・529・535）：調査区の最も東側の川寄りに位置し、円形を呈

する加曽利B式期の住居（J-60）と、方形を呈する安行２式期の住居（J-59）が重複している。黒色土中の床面全面に焼土の堆積が認められた。安行２式期のJ-59からは10点の石棒・石剣（1～10）と耳飾１点・異形台付土器の口縁部１点が出土している。加曽利B式期のJ-60からは、破片が６点（11～17）と敲石に転用の１点（18）が、山形土偶１点・垂飾１点・骨針１点・鹿角製骨角器１点と共に出土している。14・15は砥石に転用している。

J-74（第９図・A-055）：調査区の西側に位置し、方形を呈する安行２式期の住居。床面はローム層中に構築されており、焼土等の堆積は認められなかった。耳飾16点・土偶12点が出土しているが、土偶の大半は山形土偶である。石棒は直径14cmのもの（1・2）、８cmのもの（3～5）、５cm（6）の３種類が出土している。１・２は同一個体で９点の破片が接合しており、１が先端部、２は煤による黒色化がみられる。３～５も同一個体で、３が頭部で、節状剥離状に分離している。両者は当初台石として捉えていたもである。この他に、石錘１点（7）・石鏃３点・砥石３点（8～10）が出土しており、3～5は緑泥変岩製である。

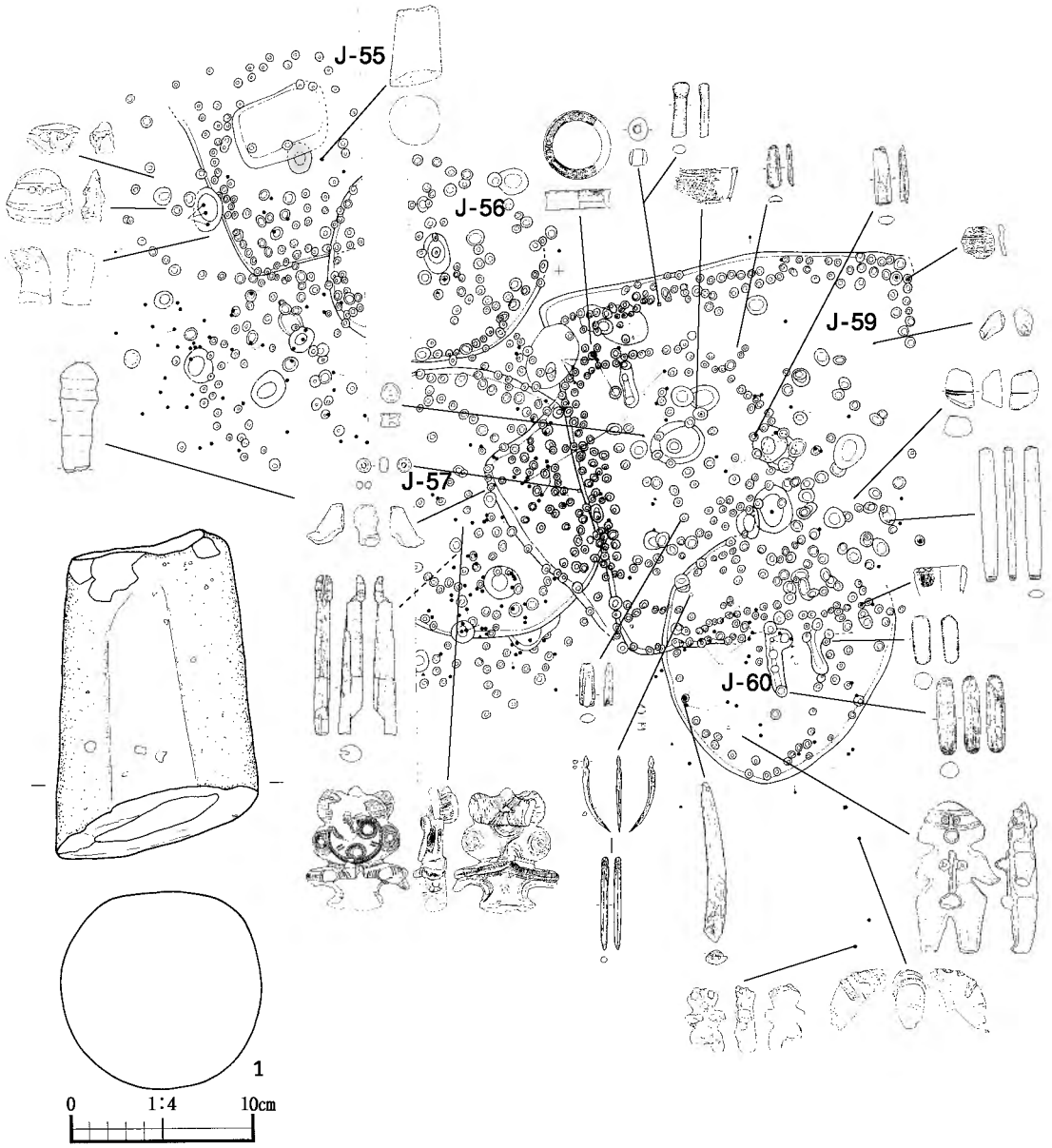
J-76（第10図・A-482）：調査区の西側に位置する方形の安行２式期の住居。床面はローム層。覆土下層から床面上に焼獣骨や鹿角を多く含む焼土が堆積。焼土中からは、異形台付土器６点・耳飾15点・土偶６点・舟形土器２点が出土し、石棒状のミニチュアが１点出土している。D-251が覆土内に硬化面を持ち、石剣の破片２点と耳飾１点を伴っている。

J-100（第11図・A-635）：７本のピットが直径12mの円形に配置された掘立柱建物跡。中に

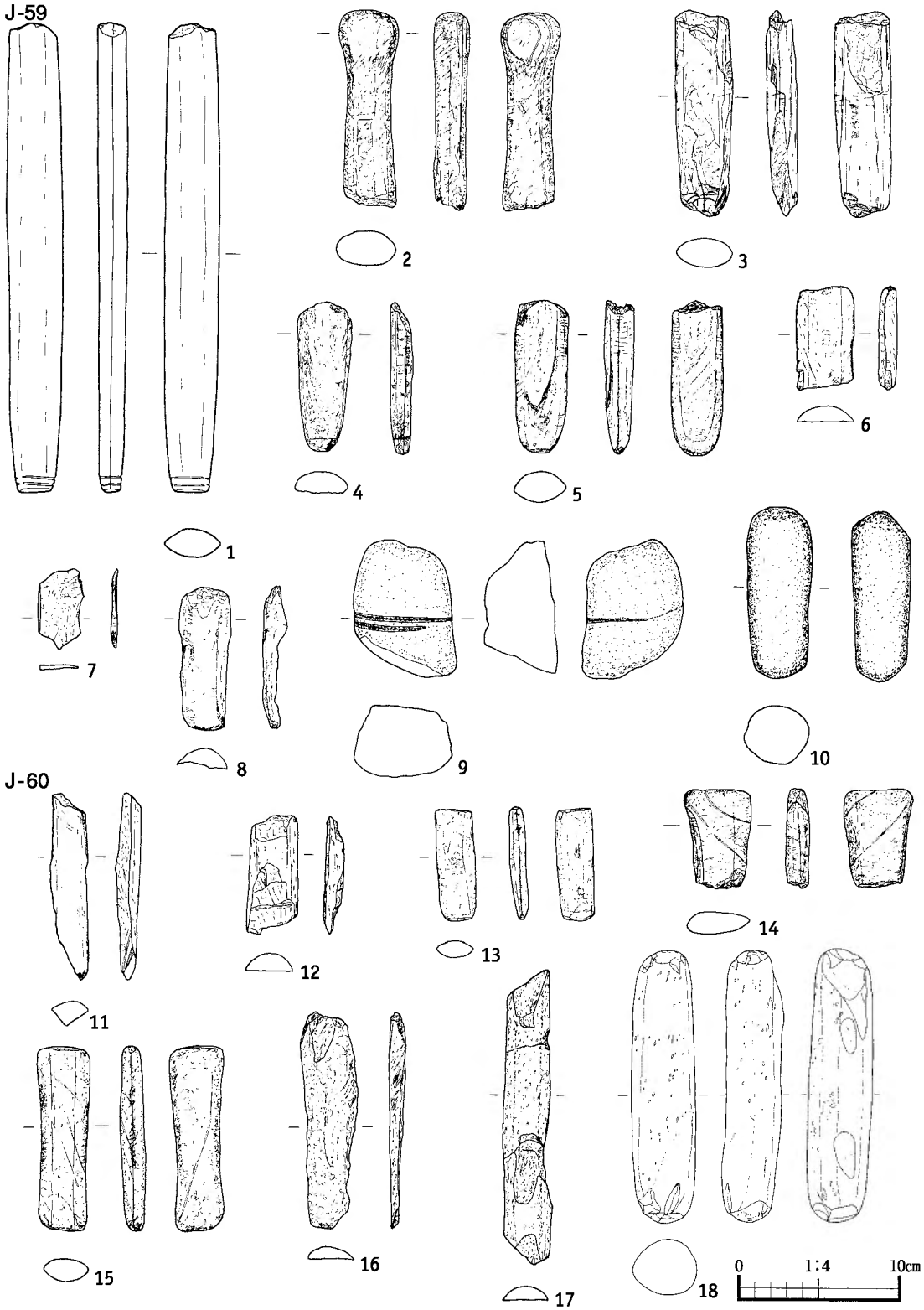


第６図　J-45遺物出土状況

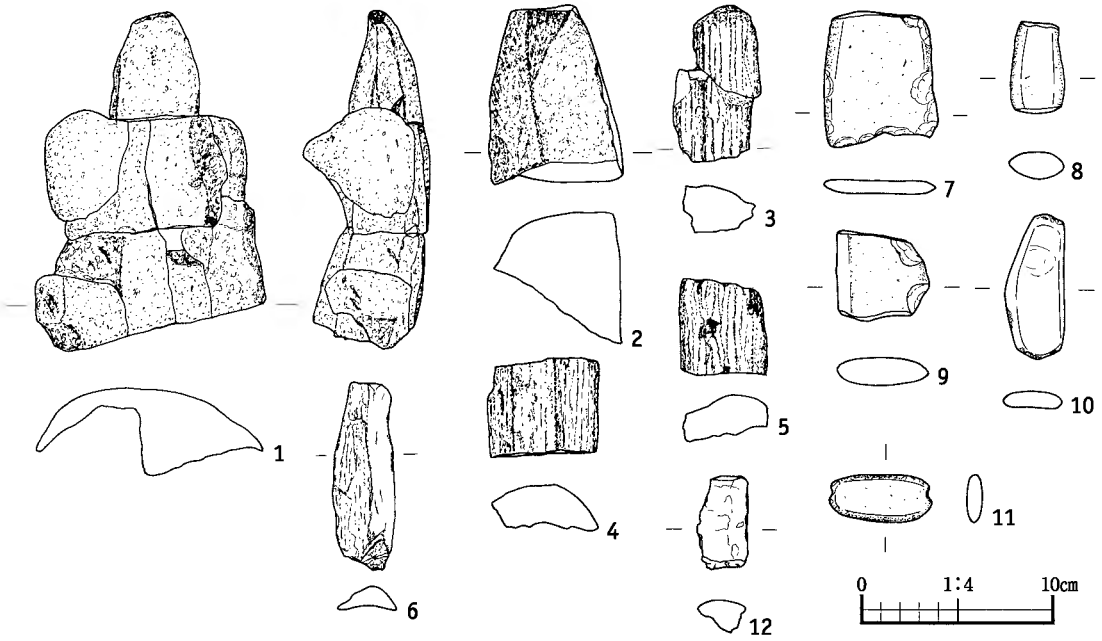
も数本のピットと２ケ所の焼土が存在する。覆土には明確な柱痕が、底面には当たりが検出された。同地点は現道で、内側の方形遺構が伴うものかは不明である。このうちP-7から石棒１点（報告 287－23）と異形台付土器が、中央から石剣１点（3）が出土している。有頭の石棒はX字状文を施すもので、群馬県矢瀬遺跡に例がある。P-2～4から安行３b式土器が出土している。廃棄時の流れ込みで、時期的にはJ-98・J-102と関係すると思われる。市原市西広貝

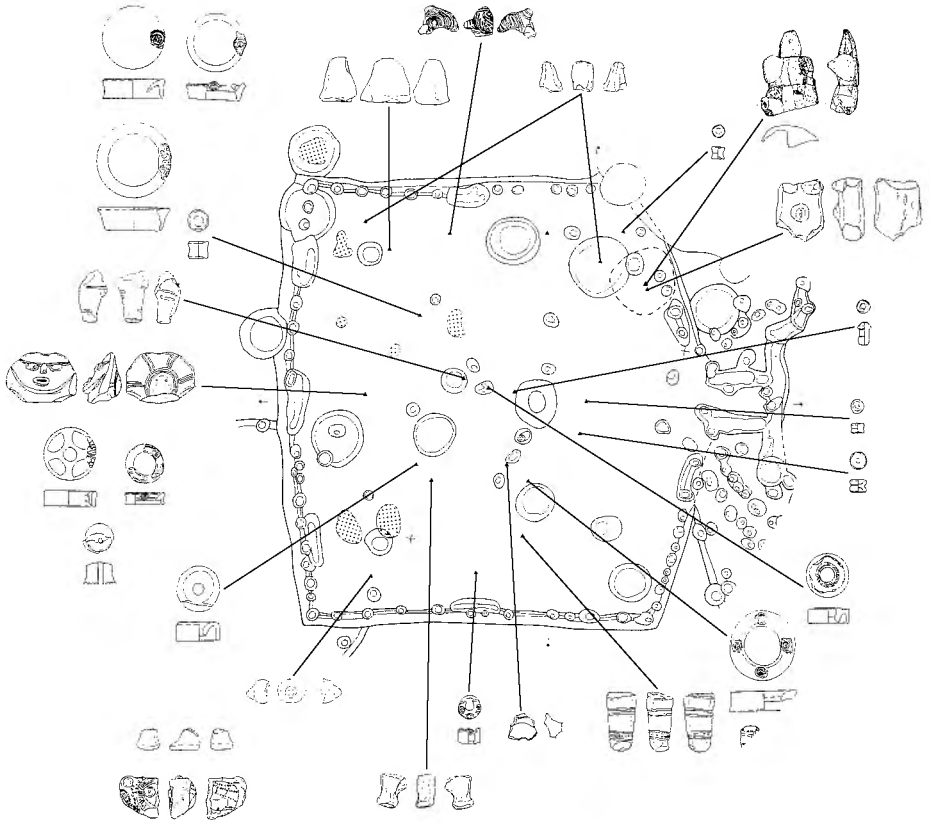


第７図　J-59・J-60遺物出土状況



第８図　J-59（1～10）・J-60（11～18）　出土遺物



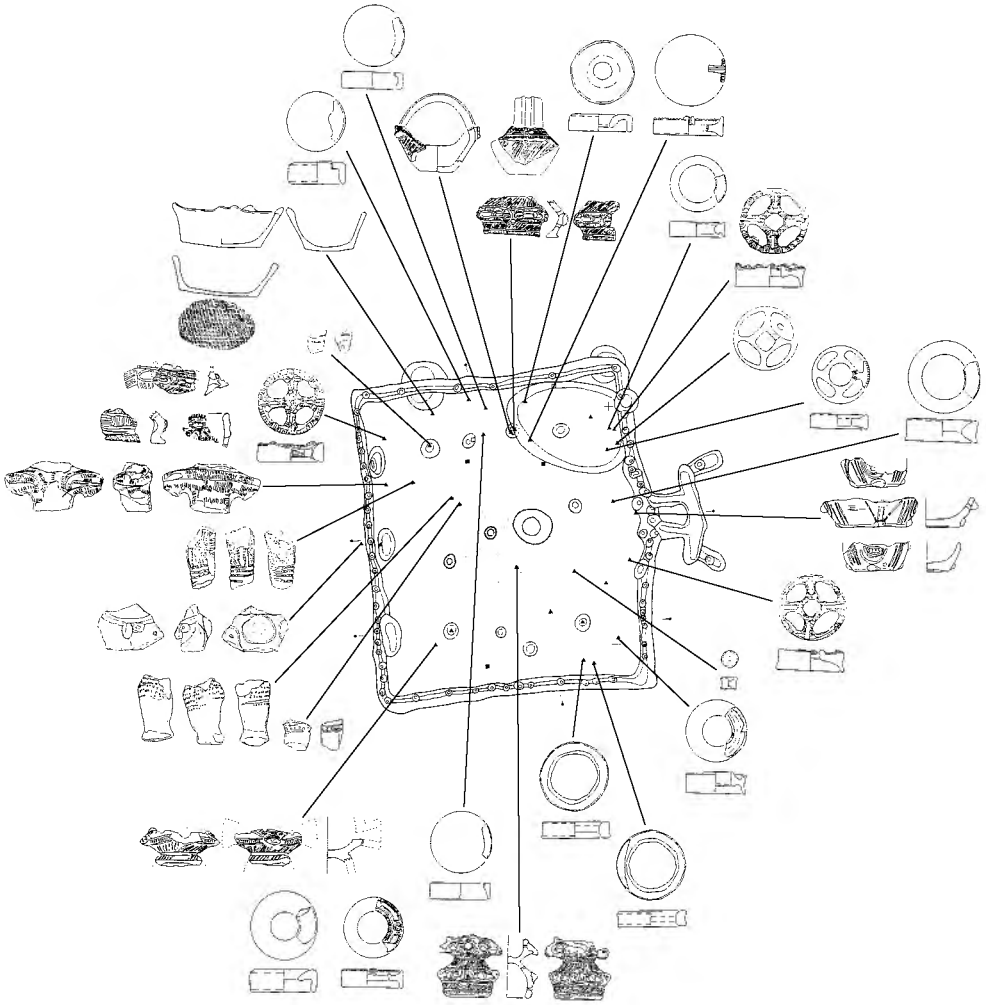


第９図　J-74出土遺物と遺物出土状況

塚Ｅ４晩期包含地点下で、直径11ｍの円形に配された柱穴が11ケ所の焼土と共に検出されている。

J-102（A-622）：調査区西側に位置し、円形を呈する安行３ａ式期の住居。床面はローム層で、２基の炉と、壁際に５ケ所の焼土があり、拡張が考えられる。石剣２点と玉１点・石鏃１点・石錘１点が出土し、石剣１点（報告 285－22）は被熱により全面赤化している。

J-125（第12図・A-626・635）：調査区の南側に位置し、床面が黒色土中であり、現道により攪乱を受け、遺構プラン検出には困難を極めた。調査時では曽谷式期～安行１式期のJ-125と、安行２式期のA-634、晩期前半のA-635の３軒の重複と捉えたが、報告時にはJ-125１軒とのみ認定している。A-634は黒色土中の壁柱穴に沿って焼土が検出され、東寄りに炉があり、北から鯨の椎骨が、南側から亀形土製品と石冠が出土している。亀形土製品は、海獣に近い。石

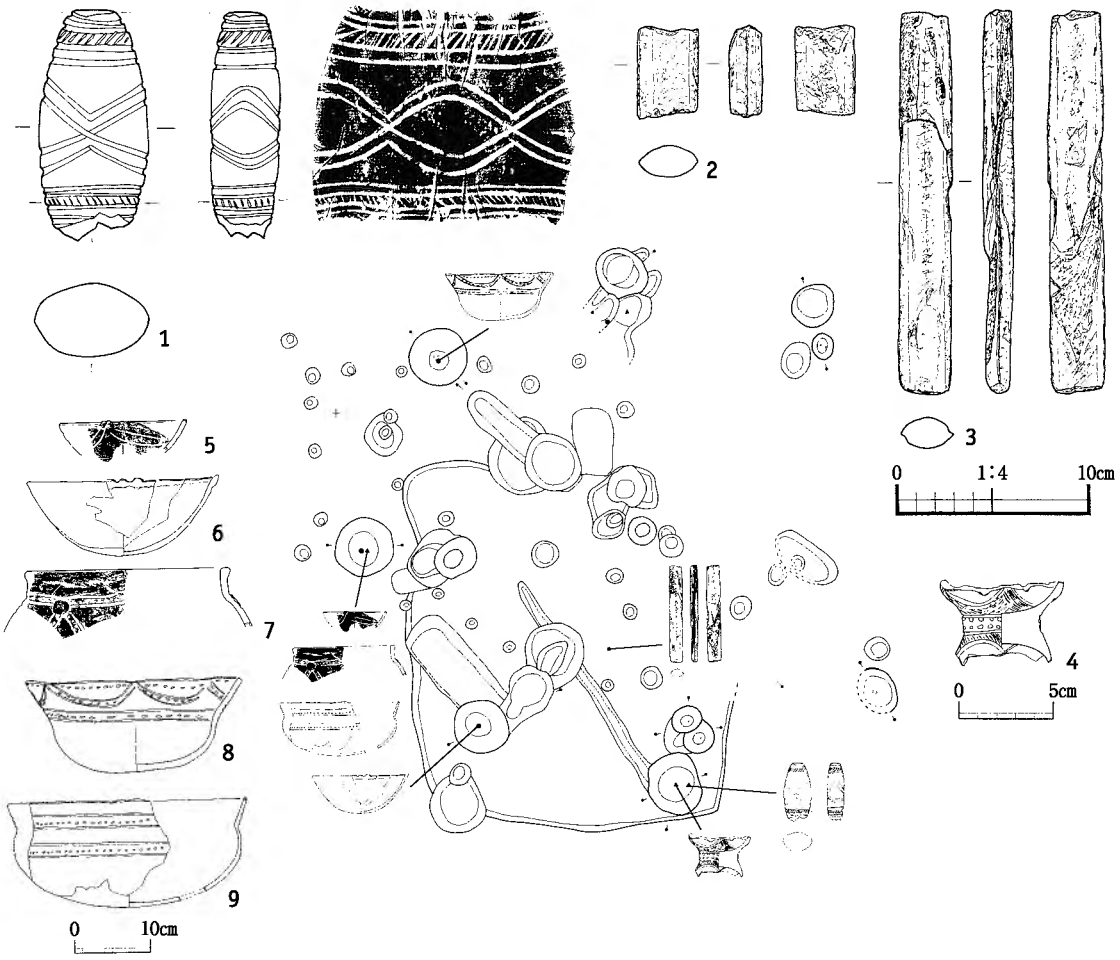


第10図　J-76遺物出土状況

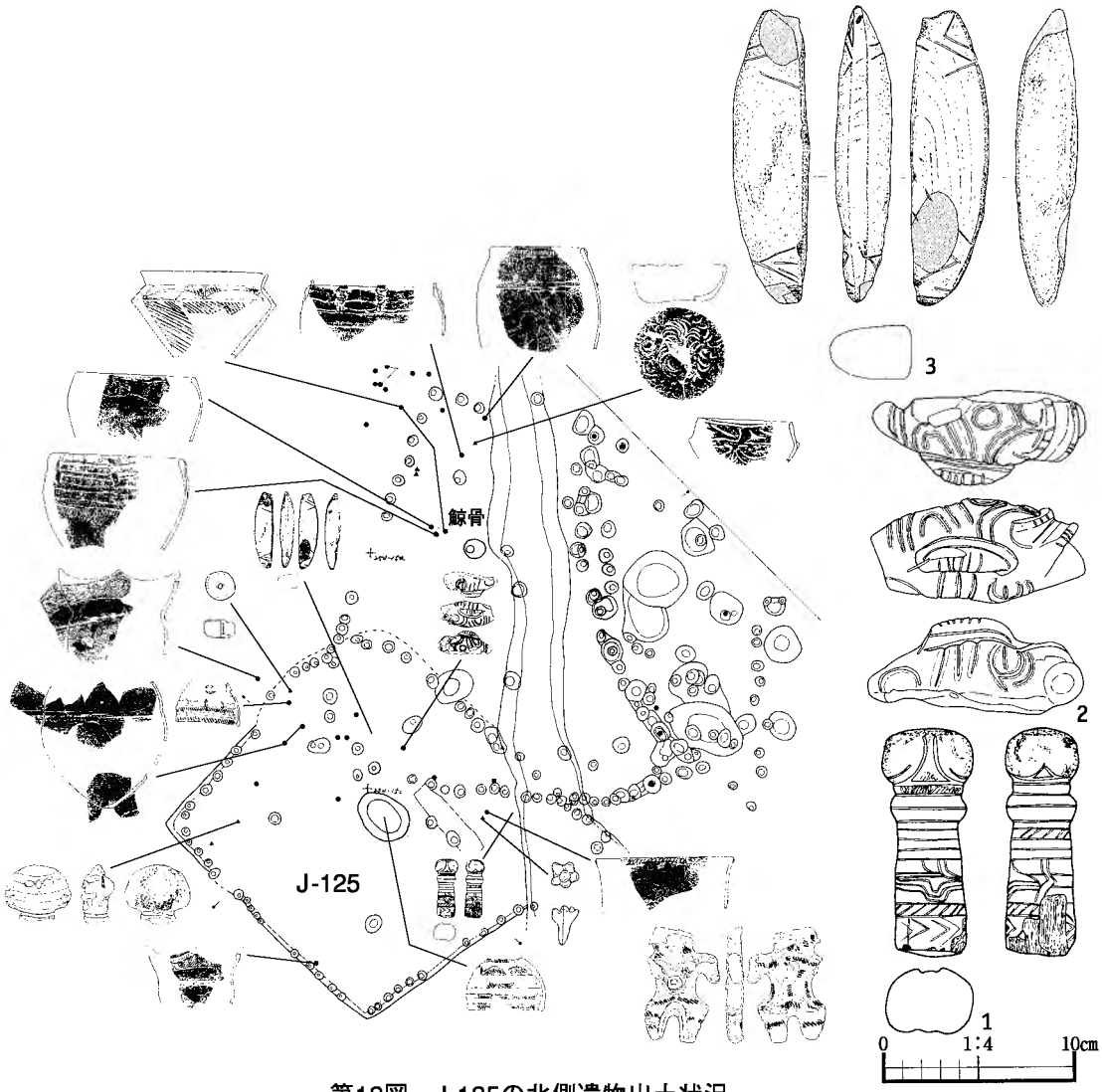
冠は両端に鋸歯状の細い沈線があり、二酸化鉄で赤化している。D-52からも石冠が出土している。両端に隆線状のものがあり、熱で破砕している（第14図）。貝の花貝塚25号住居、西広貝塚Ｅ４出土の石棒の文様と共通する。精巧な有頭石棒がJ-125の東側から出土している。同期の土器にみられる矢羽根状沈線を有し、石冠同様赤化している。

D-369（第13図・A-626・635）：J-93内の貝層を伴う土壙で、加曽利B式土器の大型破片を充填した中から、２点の破片が接合している。

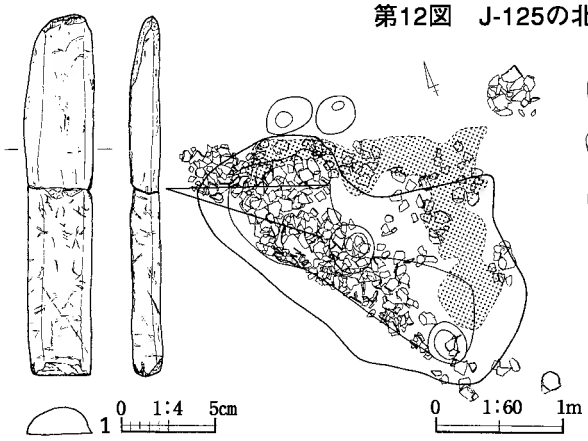
14O-3aグリッド（第１図）：長さ66.8cmの石棒が頭部を上にして突き刺した状態で出土。掘り込みはない。同地点は縄文時代の集落とは隔絶した西側の台地で、最も標高の高い地点である。周辺には加曽利B式期の住居１軒があるのみである。亀裂状態からも直接ローム層中に打ち込んだものである。石棒に同様の剥離が多いのはこのような使い方によるものと、春成秀



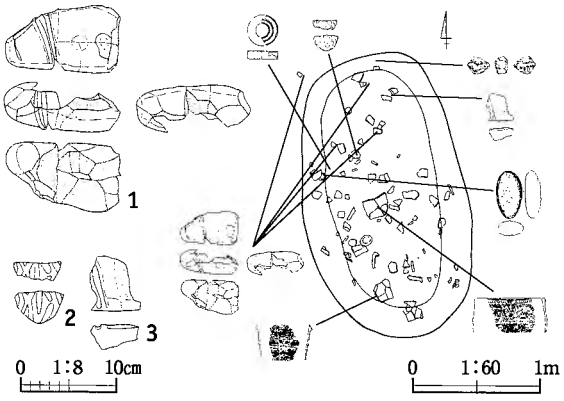
第11図　J-100出土遺物と遺物出土状況



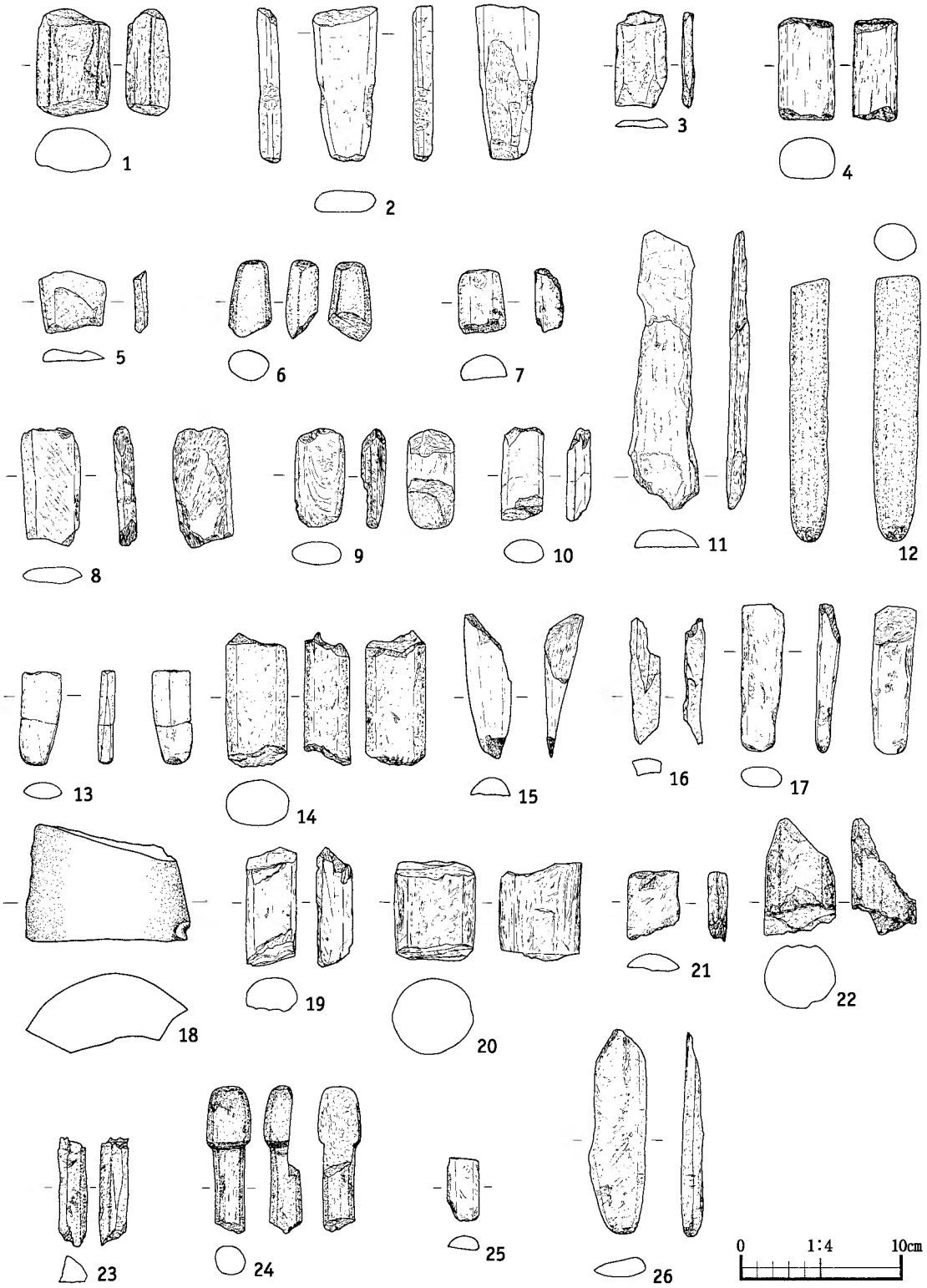
第12図　J-125の北側遺物出土状況



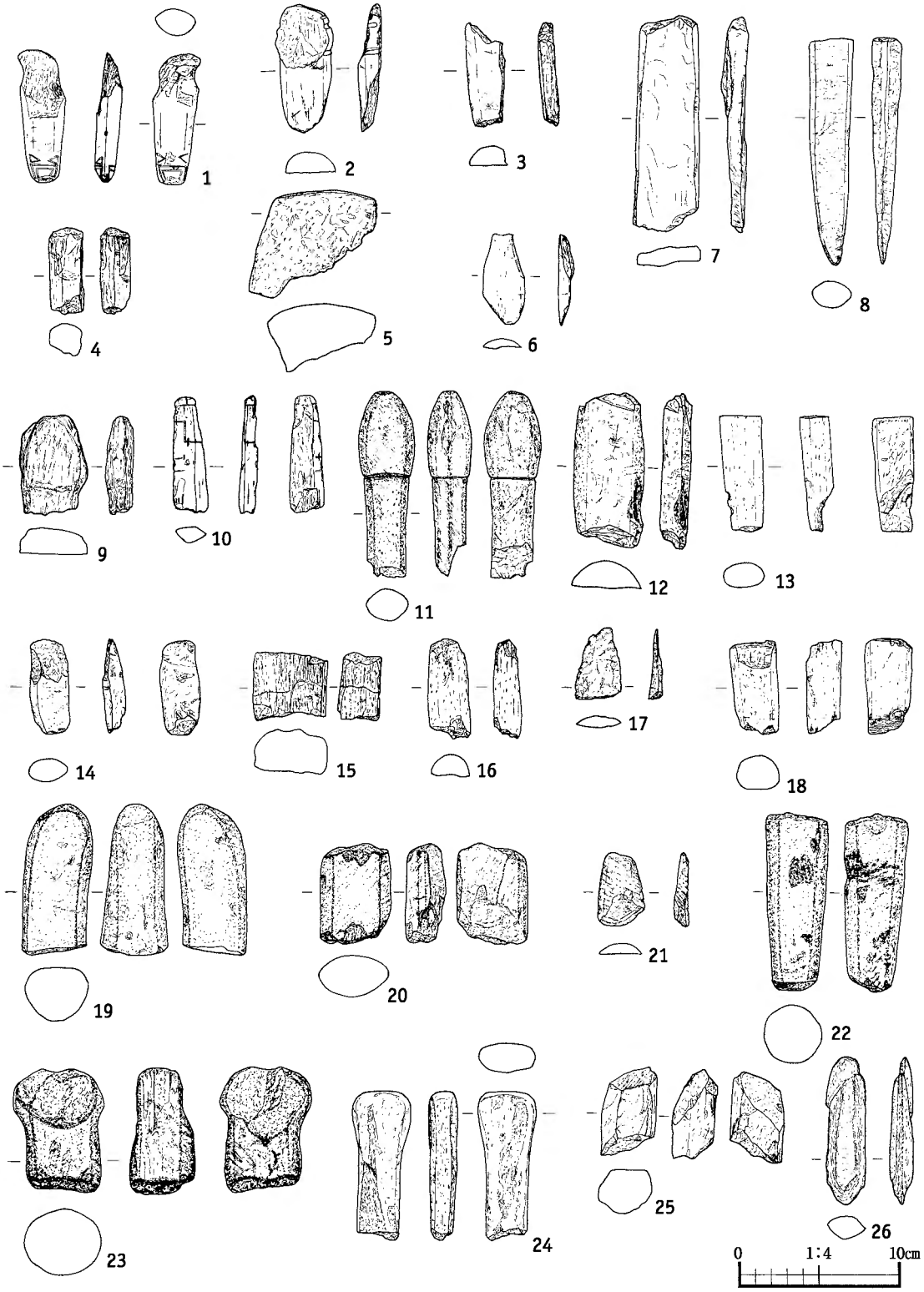
第13図　D-369出土遺物と遺物出土状況



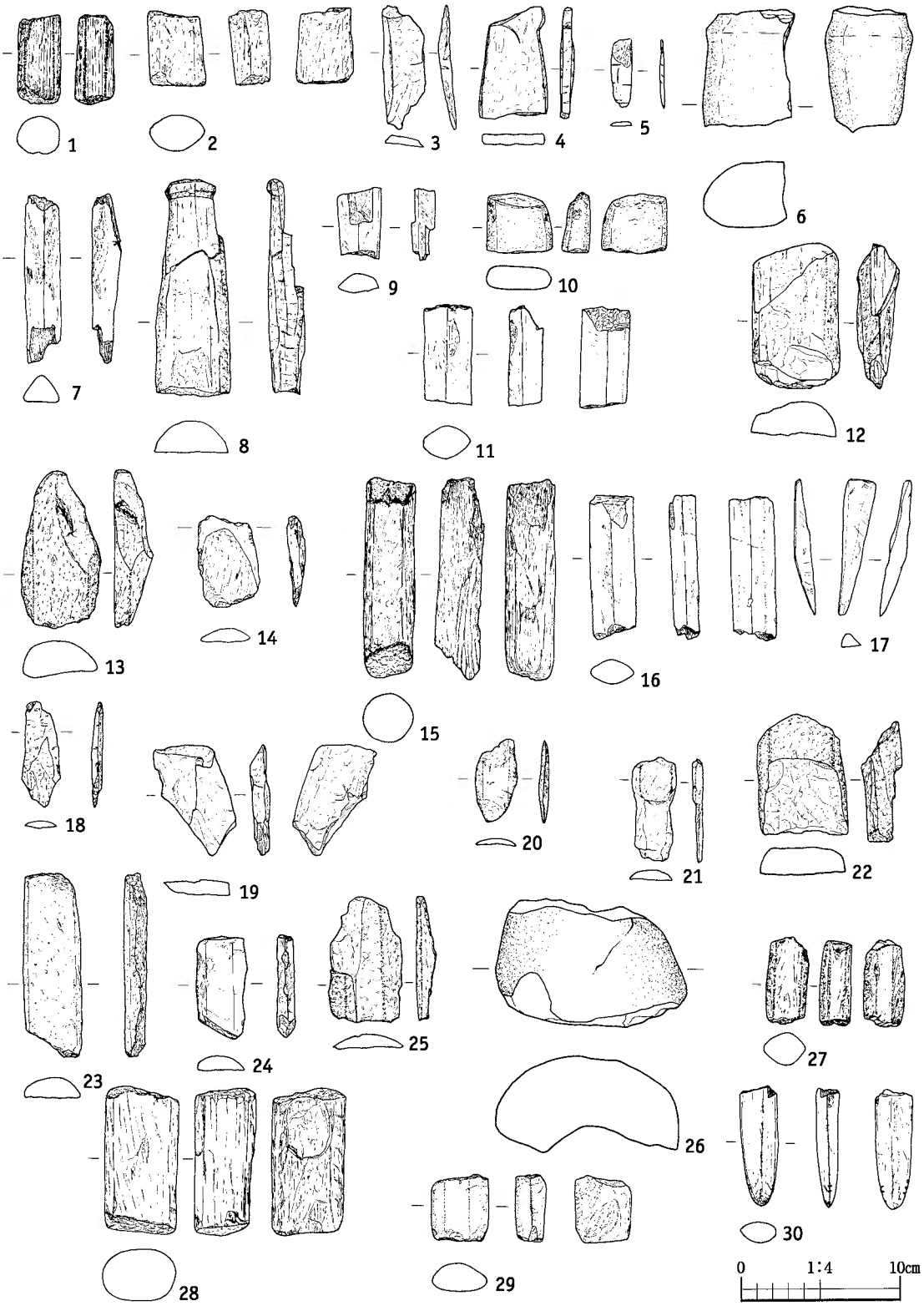
第14図　D-52出土遺物と遺物出土状況



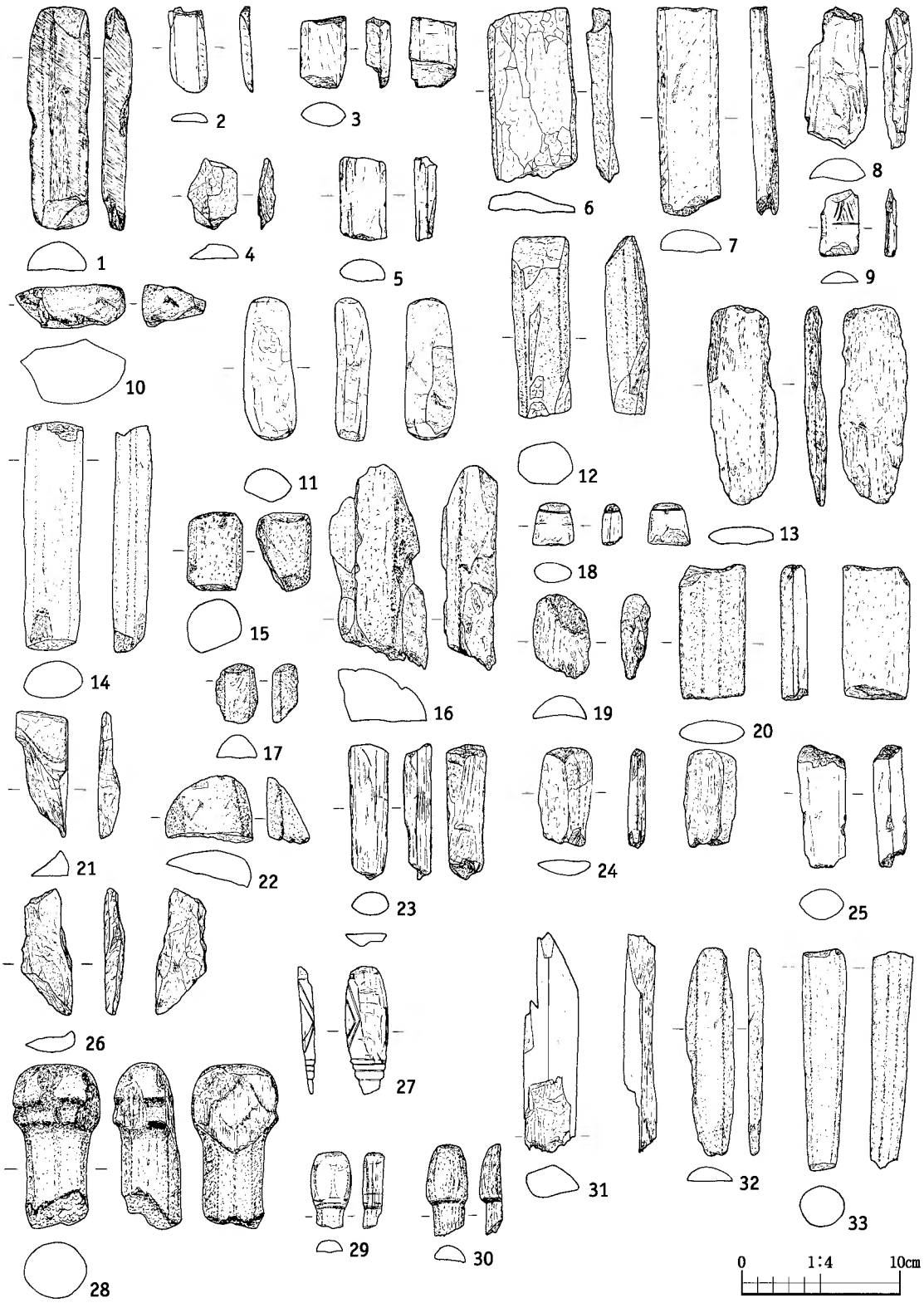
第15図　遺構内出土遺物



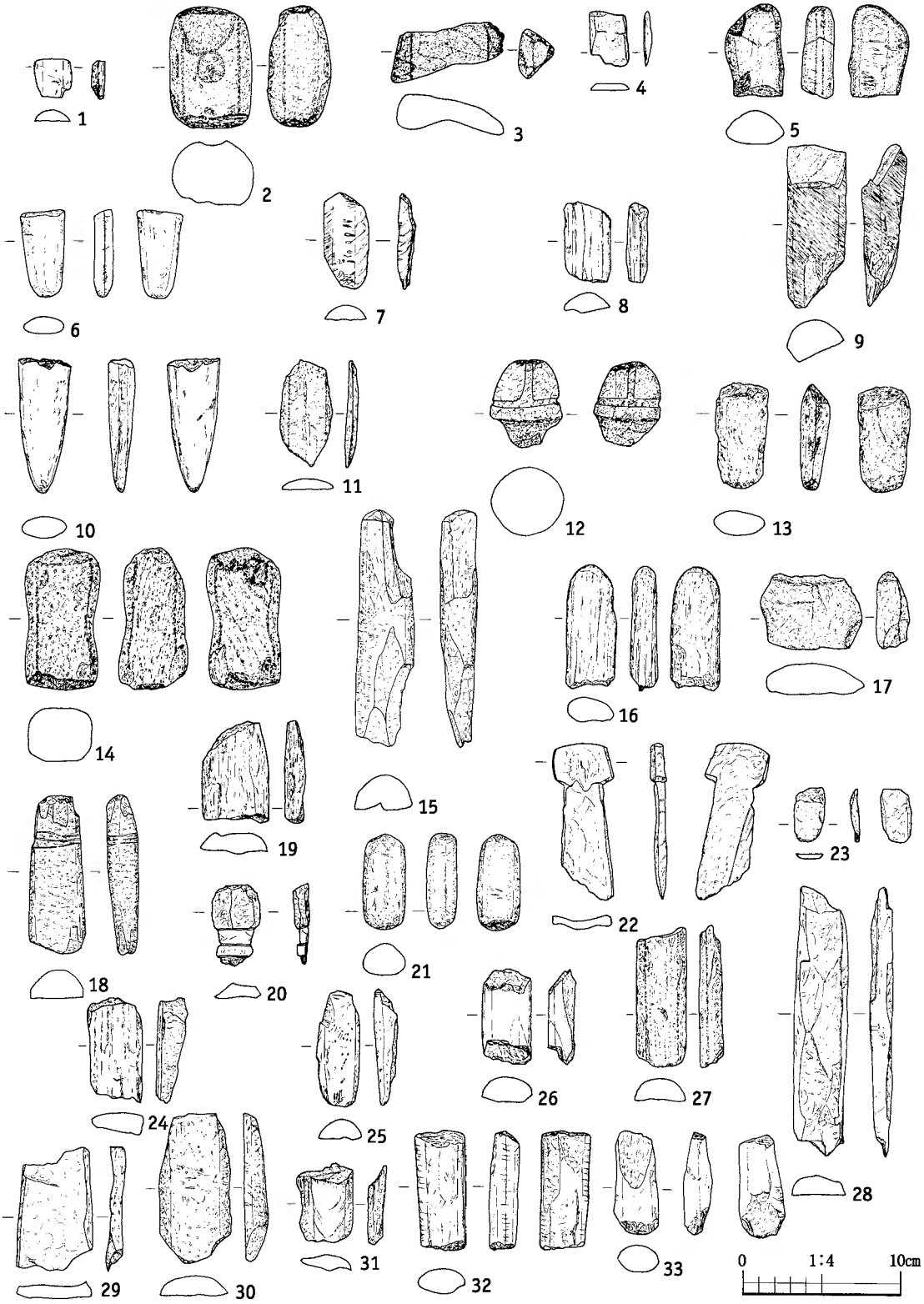
第16図　調査区出土遺物(1)



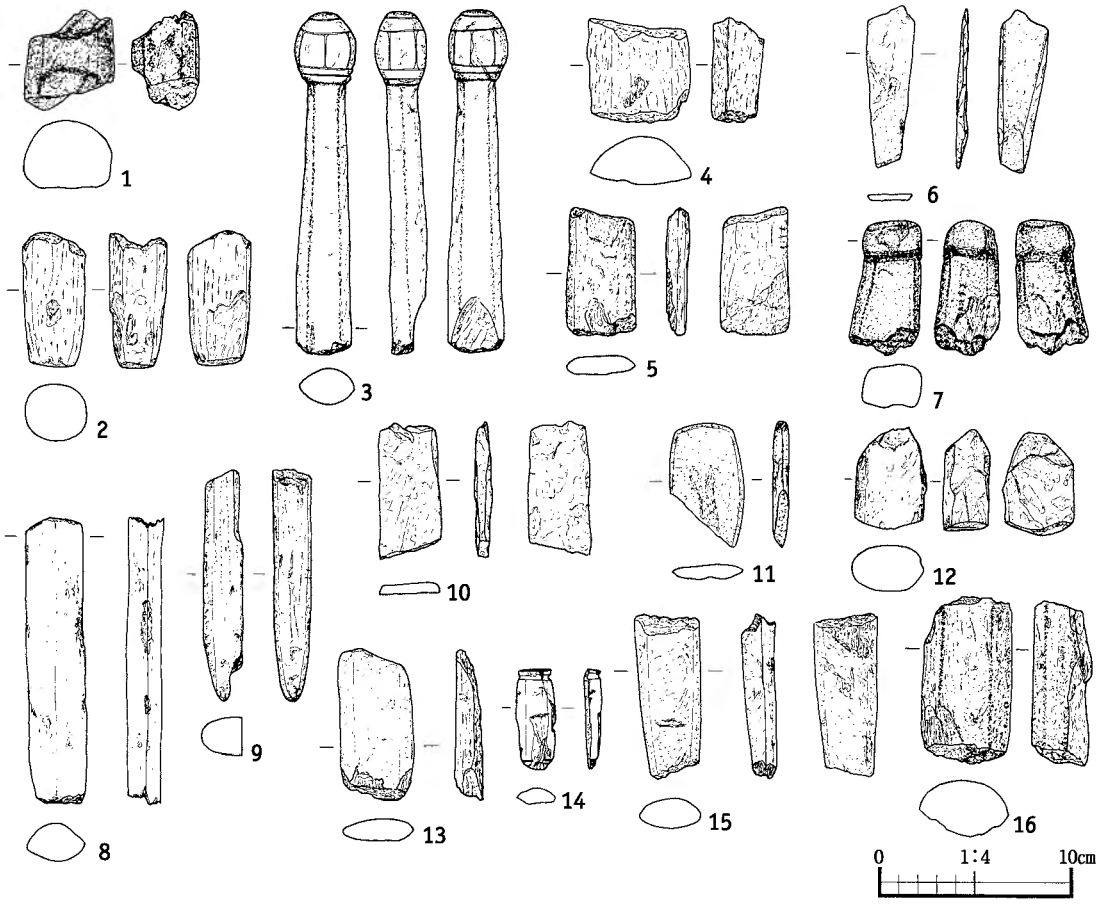
第17図　調査区出土遺物(2)



第18図　調査区出土遺物(3)



第19図　調査区出土遺物(4)



第20図　調査区出土遺物(5)

爾・佐原眞両氏から指摘を受けた。J-57出土の石棒（報告 285－18）も同形態を有する。

22V-15グリッド：５点（報告 285－11・286－20・287－17・21）が出土。獣骨層を伴う堀ノ内２式期のJ-62が存在し、周辺にも同期の遺物が多く、炉２からも注口土器が出土している。炉４出土の無文土器は安行３b式土器で、炉４を中心に遺構が考えられ，石棒も当該期の包含層に伴うと思われる。報告285－11は中央の敲打痕と沈線の特徴より熊登型石棒と考えられる。東北地方に分布し、関東地方では現在真福寺貝塚出土の１例のみである。

（報告で出土地不明とされたJ-17の報告284－7の石剣は22U-16a-1、報告313－391の木蒐土偶は22V-13c-5と現地NOが判明し、D-32号土壙の遺物はD-3号土壙のものである。『千葉県史資料編』では住居数を175軒、報告では125軒となっているが、これについては改めて検討を加える。）

２．内野第１遺跡における石棒・石剣の特質

安行２式期の住居にでは、J-16の有頭の大型石棒や独鈷状石器及び異形台付土器のような祭祀的遺物を伴う例、J-59の石棒・石剣を多く出土する例、J-74の大型の石棒を破砕している例、J-76の異形台付土器・耳飾を多く出土するが石棒・石剣を欠く例が認められる。石棒・石剣を出土する多くの住居床面に焼獣骨を含む焼土が伴うことは、住居の廃絶時にこれを用いた祭祀が行われたことを示唆するが、J-74には焼土はない。J-100の掘立遺構の柱穴からの出土例は、中沢貝塚・井野長割遺跡においても認められ、両者共に、柱穴内に焼土を伴っている。また、加曽利貝塚・中沢貝塚・吉見台貝塚・宮内井戸作遺跡・鹿島台遺跡等のように、加曽利B式期～晩期前半の拠点集落には大型住居が存在し、石棒・石剣及び異形台付土器が伴う例が多いが、当遺跡のJ-90においては出土遺物が殆どなく、炉がない等再考の必要がある。

県内の石棒では中野久木谷頭Ｃ遺跡SI-64出土の加曽利ＥⅡ式期のものが、最も古い。中期では大型石棒が一般的で三直貝塚の一軒の住居から９点出土している例や、囲護台遺跡339号土壙の細型の例もある。後期前半の段階で大型石棒から細型石棒に変化するようであり、一本松遺跡では堀之内式の屋外埋設土器の中から出土しており注目される。内野第１遺跡では加曽利B式期の段階で大型石棒と断面円形の石棒に加え、断面が扁平な石剣と断面が菱形の石剣が揃う。鹿島台遺跡では樹立した大型石棒に、細型石棒と異形台付土器が伴い、加曽利貝塚J-20では大型住居から２点の石棒と異形台付土器がセットで出土している。また、平成２年の立会調査で、犢橋貝塚の上流部の井戸遺跡（雷電貝塚）で加曽利B式期の貝ブロックが検出された。当水系は、内野第１遺跡から分水嶺を越え東京湾に至るルートに相当し、鯨骨やオキアサリの搬入路と思われる。晩期最終末の子和清水遺跡の存在等極めて重要である。

今回の資料では同時に出土した土器群が重要な問題となるが、それらについては機会を改めて公表を行いたい。本稿は、平成15年10月の「千葉県共同研修会」および平成16年２月の千葉市立加曽利貝塚博物館「郷土史講座」の資料を基にしている。資料作成には、阿部芳郎、鶴岡英一、西野雅人、犬塚俊郎、小川勝和、川根正徳、小林清隆、立出佳美の各氏の協力を頂いた。また本資料の実測は志村真咲、トレースは山形道子、調査最終段階の全体図の第１図は佐藤真利子の各氏の協力を得た。記して感謝申しあげる。

（財団法人千葉市教育振興財団埋蔵文化財調査センター）

参考文献

㈶千葉市文化財調査協会 2001 『千葉市内野第１遺跡発掘調査報告書』
㈶千葉市教育振興財団埋蔵文化財調査センター 2004 『埋蔵文化財調査センター年報』16
㈶千葉市教育振興財団埋蔵文化財調査センター 2005 『埋蔵文化財調査センター年報』17
後藤信祐 1986 「縄文後晩期刀剣形石製品の研究（上）」『考古学研究』第33巻３号
後藤信祐 1987 「縄文後晩期刀剣形石製品の研究（下）」『考古学研究』第33巻４号

春成秀爾 1996 「性象徴の考古学」『国立歴史民俗博物館研究報告』第66集
角田真也 1997 「関東地方における細型石棒の文様とその位置づけ」『東国史論』12
上総国分寺台遺跡調査団 1997 『西広貝塚』
市原市教育委員会 1999 『祇園原遺跡』
千葉県 2000 『千葉県史・資料編　考古（旧石器時代・縄文時代）』
白井久美子・小林清隆 2002 「縄文時代後期大型住居と舟の線刻をもつ須恵器－鹿島台遺跡の調査概要と新資料の紹介－」『研究連絡誌』63 ㈶千葉県文化財センター
㈶印旛郡市文化財センター 2003 『佐倉市宮内井戸作遺跡』
池田淳子 2003 「熊登型石剣について」『三面川流域の考古学』第２号

第１表　内野第１遺跡石棒・石剣計測表

遺構番号 グリッド	形状	長×幅×厚（cm）				残存部	石材	旧台帳No. 石棒	旧台帳No. 石剣	旧遺物番号	図No.	備考	被熱
J-16	Ⅲ-B-1	7.0	3.5	0.5	10.8	頭部	頁岩		31	A-125-13	2-2	3-4と同一個体	○
	Ⅲ	8.0	3.3	1.3	44.4	柄部			54	A-125-18	2-3		○
	Ⅲ	12.5	3.1	0.6	23.1	柄部	頁岩		77	A-125-13	2-4		○
	Ⅰ-A-1	13.0	7.5	5.0	700.0	頭部	緑泥片岩	15		A-125-74	2-1		
J-17	Ⅴ-A-1	32.8	3.7	2.4	445.8	完形	砂岩		8	21U-16a-1		報告285-25　先端に文様	
	Ⅴ-D	23.8	3.0	2.4	262.4	1/2	緑泥片岩		10	21U-16c-78		報告284-7	
	Ⅱ	6.7	4.6	6.6	138.1	胴部	紅簾雲母片岩	126		A-177-90	15-1		○
J-18	Ⅳ-C	24.7	2.8	2.2	251.8	1/2	緑泥片岩		45	21U-16a-80		報告284-6	
	－	11.5	11.2	9.7	1581.0	胴部	石英斑岩	23		21U-12b-16		報告284-5	
J-20	Ⅲ-C	8.2	2.0	0.7	19.6	頭部	粘板岩		49	A-383-1	5-2	剣型	
	Ⅲ	11.8	3.0	1.4	68.9	完形	粒状安山岩		62	A-383-197	5-1	打製石斧に転用	
	Ⅱ-B-1	4.0	2.3	0.7	5.0	破片		39		A-383	5-3		○
	Ⅱ	3.5	2.8	0.5	9.0	破片	頁岩	54		A-383	5-4		
J-21		9.5	3.6	1.4					63	A-384-63			
	Ⅱ	5.9	3.7	0.6	19.1	柄部破片	頁岩		76	A-385	5-6		○
	Ⅱ	6.0	4.3	0.6	21.9	柄部破片	頁岩		141	A-385	5-5		○
	Ⅱ	29.5	4.0	4.1	453.4	柄部	緑色珪質頁岩	42		A-384	5-7	3点接合	
										21V-7c-114			
	Ⅱ	5.0	3.7	2.8	74.0	胴部	緑泥片岩	40		A-384			
J-35	Ⅲ-C	9.7	3.0	1.5	94.8	頭部	緑泥片岩		11	A-130-9	15-2	緑簾雲母片岩	
	Ⅱ	6.0	3.3	0.8	14.0	柄部破片	頁岩		71	A-130-p4	15-3		○
J-37	Ⅱ	6.3	3.3	2.8	125.3	頭部		3		A-119-3	15-4		
J-45	Ⅰ	15.3	10.8	11.0	2660.0	胴部	石英安山岩	37		A-146-143	6-1		
	Ⅱ	9.0	4.0	0.9	38.6	破片	頁岩	59		A-131-p8			
J-51	Ⅲ	3.8	4.1	0.8	20.3	柄部破片	砂岩		89	A-169-p55	15-5		
	Ⅱ-C	4.8	2.7	2.0	35.6	頭部	粗面安山岩	125		A-136-p1	15-6	敲石に転用	
J-55	Ⅰ	17.3	11.3	10.3	2958.3	胴部	石英安山岩	89		A-541-1	7-1		
J-57	Ⅱ-A-1	6.0	1.7	1.7	35.7	頭部	緑泥片岩	87		A-542-1		報告287-19	
J-58	Ⅱ-B	35.5	3.6	4.8	801.6	完形	緑色珪質頁岩	77		A-538		報告285-18	
J-59	Ⅲ	12.8	3.6	1.9	123.6	柄部	頁岩		92	A-523-77	8-3		○
	Ⅴ-D	29.5	3.4	1.8	343.9	完形	緑泥片岩		93	A-523-75	8-1	報告285-9　先端沈線2本	
	Ⅲ-A-1	12.1	3.1	1.9	141.8	頭部	紅簾石英片岩		95	A-523-71	8-2		○
	Ⅱ	8.9	3.2	1.2	37.5	胴部	安山岩		99	A-523-18	8-8		
	Ⅴ-D	9.4	3.3	1.4	63.1	頭部	緑簾雲母片岩		101	A-523-117	8-4	先端沈線2本	
	Ⅴ-C	9.6	3.4	1.8	96.3	頭部	緑泥片岩		102	A-523-40	8-5		
	－	5.0	2.9	0.4	5.5	柄部破片	頁岩		115	A-523	8-7		○
	Ⅱ	6.2	3.6	1.0	34.3	柄部破片	頁岩		138	A-523-128	8-6		
	Ⅰ-A-1	10.8	4.0	3.7	266.4	頭部		86		A-523-122	8-10		
	Ⅱ	7.8	6.2	4.5	333.7	頭部		90		A-523-161	8-9		
J-60	Ⅴ	11.6	3.5	1.5	68.0	完形	砂岩		96	A-529-58	8-15	砥石	
	Ⅴ	6.2	4.2	1.5	42.0	胴部	安山岩		97	A-529-60	8-14	砥石	
	Ⅱ	18.6	2.9	0.9	55.5	胴部	緑簾片岩		98	A-529-71	8-17	3点接合	○
	Ⅴ-A-2	7.1	2.4	1.1	22.6	頭部	砂岩		104	A-543-p30	8-13	砥石	○
	Ⅱ	13.6	3.2	0.9	46.1	柄部破片	緑泥頁岩		105	A-543-2	8-16	黒色化	○
	Ⅱ	10.8	2.4	1.5	41.9	柄部破片	黒色珪質頁岩		111	A-529	8-11		
	Ⅴ	7.2	3.2	1.0	33.9	柄部破片	頁岩		120	A-529	8-12		○
	Ⅱ-A-2	17.0	4.0	3.4	449.4	完形	緑泥片岩	73		A-529-44	8-18	報告285-12　敲石に転用	
J-63		7.8	3.2	0.5	20.4	柄部破片	緑泥片岩		118	A-534			○
J-74	Ⅱ	18.0	12.0	4.6	645.0	頭部	砂岩	30		A-055-530533	9-1		
J-76	Ⅱ	3.9	2.8	1.6	28.7	柄部破片	石英片岩		83	A-482			○
J-84	Ⅲ	7.3	3.6	1.3	58.5	柄部	緑泥片岩		58	A-368-p54	15-8		
J-97		3.7	2.5	1.4	24.8	破片		111		A-623			
J-98	Ⅲ	11.7	4.3	0.9	112.2	柄部破片	緑泥片岩		121	A-612-67	15-11		
		8.0	3.8	2.5	75.6	破片		92		A-612-3			
		11.0	3.4	2.7	120.3	胴部		93		A-612-59			
J-100	Ⅴ	4.7	3.2	1.6	46.9	柄部	緑泥片岩		122	A-606	11-2		
	Ⅴ	20.0	2.8	1.7	152.5	頭部	緑泥片岩		123	A-606-1	11-3		
	Ⅱ-B-1	6.0	2.7	1.7	44.8	頭部	頁岩	110		C-789-2	11-1	報告287-23	
J-102	Ⅲ-C	29.8	4.4	2.0	428.7	頭部	紅簾片岩		117	A-622-1	15-9	報告285-22	○
	Ⅲ-C	6.1	3.2	1.5	46.4	柄部破片	緑泥片岩		119	A-622-85		打製石斧に転用	
J-115		3.9	3.6	0.9	15.4	胴部		112		A-626			
J-120	Ⅲ	5.9	2.5	1.5	34.9	柄部	粘板岩		132	A-580	15-10	赤彩	
J-121	Ⅱ-C	16.7	2.7	2.4	196.7	頭部	紅簾雲母片岩	74		A-578-1	15-12		
J-125	Ⅲ-A-1	4.2	2.8	1.4	18.6	頭部	砂岩		133	A-625-35	15-11	砥石に転用	
	Ⅱ-B	11.8	4.0	3.8	277.6	胴部	頁岩	96		A-625-29	12-1		○
		7.4	4.8	3.0	161.8	胴部		114		A-634-43			

遺構番号 グリッド	形状	長×幅×厚（cm）				残存部	石材	旧台帳No. 石棒	旧台帳No. 石剣	旧遺物番号	図No.	備考	被熱
D-52		9.0	4.4	1.4					64	C-474-7			
	Ⅴ-A-2	5.8	2.5	0.8	19.2	頭部	砂岩		65	C-474-63	15-13	砥石に転用	
D-251	Ⅱ	8.0	3.5	2.5	140.3	胴部	石英安山岩	63		C-580	15-14		
	Ⅱ	9.1	2.7	1.1	40.6	柄部破片	黒色珪質頁岩	79		C-580-12	15-15		
D-369	Ⅲ	18.9	3.6	1.4	174.2	柄部			126	A-633-194·205			
D-372	－	8.1	2.2	1.0	16.6	柄部破片	玄武岩		134	C-865	15-16		
炉	Ⅲ-A-1	9.2	2.7	1.2	52.9	頭部	粘板岩		66	C-482	15-17	28エリア炉７	
H-35	Ⅲ-C	12.9	3.5	1.4	82.3	頭部	鮮緑岩		73	A-076-23	15-26		
H-62	Ⅳ-A-1	9.0	2.5	1.9	67.9	頭部	緑泥片岩	2	有頭	A-104-4	15-24		
H-115	Ⅴ-B-1	16.0	3.0	1.8	143.8	完形	緑泥片岩		29	A-250-24		報告286-2	
H-186		16.7						75		A-337			
		4.0	2.2	0.2	3.7	破片	頁岩	76		A-337			
H-262	Ⅱ	3.7	2.1	0.6	10.8	破片	黒色珪質頁岩	53		A-446	15-25		
H-292	Ⅱ	6.7		1.8	27.0	胴部	緑泥片岩	130		A-570	15-23		
H-295	Ⅲ-A-2	12.4	5.7	1.8	219.2	頭部破片	緑泥片岩		103	A-576-1			
	Ⅱ	16.9	4.2	3.4	449.5	胴部	緑泥片岩	73		A529-44		報告288-12　敲石に転用	
M-15	Ⅰ	7.5	10.5	4.2	478.0	胴部	石英安山岩	88		M-15	15-18		
M-19	Ⅱ	4.0	2.5	0.5	10.5	破片	石英安山岩	82		M-19-54			
M-33	Ⅱ	7.0	3.0	2.0	83.5	胴部	黒色珪質頁岩	20		M-33	15-19		
M-37	Ⅱ	6.0	5.0	4.5	212.1	胴部	頁岩	58		M-37	15-20	赤化	○
	Ⅱ	6.0	1.9	0.7	13.9	破片	黒色珪質頁岩	80		M-37			
M-65	Ⅲ	4.0	3.2	1.3	24.9	柄部破片	緑泥片岩		42	M-65	15-21	石棒	
	Ⅱ	7.1	4.6	4.3	136.0	胴部	緑泥片岩	26		M-65	15-22		
14O-3a	Ⅱ-B-1	66.8	5.4	5.4	2546.2	完形		34		14O-3a-1		報告284-1	
21R-8d	Ⅱ-B-1	13.0	5.0	2.2	368.2	頭部	緑簾片岩	10		21R-8d		報告287-3	
23S-5b						破片		24		23S-5b			
21T-5c	Ⅱ-B-1	9.0	4.5	3.0	223.6	頭部	砂質頁岩	4		21T-5c-1		報告287-4	
21T-14d	Ⅴ-D	8.2	2.6	1.6	48.1	頭部	緑泥片岩		20	21T-14d-Ⅲ	16-1	文様有	
22T-3c	Ⅲ-B-1	8.1	3.6	1.2	49.3	柄部破片	緑泥片岩		131	22T-3c	16-2		
22T-3d	Ⅱ	6.5	2.5	0.8	25.1	柄部破片	粘板岩		60	22T-3d	16-3		
22T-4b		3.4	3.3	1.5	32.8	胴部		115		22T-4b-Ⅰ			
22T-14c	Ⅱ	5.5	3.0	0.5	9.9	柄部破片	頁岩		35	22T-14c	16-6		
22T-15d	Ⅱ	5.0	2.0	1.5	35.1	胴部	緑簾片岩	17		22T-15d-81	16-4		
	Ⅰ	6.0	6.8	3.2	160.0	茎部	石英安山岩	28		22T-15d-83	16-5		
24T-1a	Ⅱ	13.4	4.1	1.3	88.2	柄部破片	頁岩		128	24T-1a	16-7		○
24T-16a	Ⅴ-C	14.3	2.9	1.8	86.4	先端部	玄武岩		137	24T-16a	16-8		
24T-16c		7.6	2.9	2.5	88.9	胴部		94		24T-16c			
25T-10d		7.3	3.1	2.4	77.5	胴部		97		25T-10d-12			
25T-13b	Ⅱ-A-1	18.0	4.0	3.7	447.8	頭部	緑泥片岩	113		25T-13b-1		報告288-24	
21U-2a	Ⅱ-A-1	6.0	4.3	1.5	61.0	頭部	紅簾片岩	1	有頭	21U-2a-Ⅱ	16-9		
21U-2d	Ⅴ-D	7.0	2.0	1.0	20.9	頭部	頁岩		59	21U-2d-Ⅱ	16-10		○
21U-3b	Ⅱ	4.3	4.8	2.6	90.2	胴部	紅簾雲母片岩	128		21U-3b-Ⅲ·8b-Ⅲ			
21U-4a	Ⅱ	9.8	4.5	1.4	84.9	胴部	頁岩	64		21U-4a	16-12		○
21U-6c		8.1	3.8	2.5	172.9	胴部	緑泥片岩	68		21U-6c-Ⅱ			
21U-7a	Ⅱ-C	3.8	2.5	0.8	13.2	頭部	黒色珪質頁岩	78	有頭	21U-7a		Ⅰ字紋	
21U-7b		6.2	3.7	2.5	102.1	胴部		84		21U-7b-Ⅱ			
21U-8a	Ⅲ	7.2	2.6	2.0	46.2	柄部	頁岩		4	21U-8a-Ⅱ	16-13		
	Ⅲ-A-1	11.5	3.0	4.7	128.0	頭部	黒色珪質頁岩	9	有頭	21U-8a-22	16-11	頭部打痕	
21U-8b	Ⅲ-A-2	6.0	2.5	1.5	26.5	頭部	粒状安山岩		61	21U-8b-118	16-14		
	Ⅱ	5.0	2.0	1.2	17.4	胴部	頁岩	67		21U-8b-Ⅲ	16-15		
21U-10c	Ⅱ-A-2	9.0	4.0	3.5	279.6	頭部	凝灰岩	7		21U-10c-3	16-19	敲石に転用	
21U-10d	Ⅲ	6.0	3.0	2.1	59.7	柄部	紅簾石英片岩		25	21U-10d-13	16-18		○
	Ⅱ	4.3	3.0	0.7	8.5	柄部破片	緑泥片岩		110	21U-10d-30	16-17		
21U-11a	Ⅱ	5.5	2.5	1.3	38.0	頭部	金雲母片岩		22	21U-11a-2	16-16	石棒	
21U-11a	Ⅲ	6.3	2.5	2.5	118.1	胴部	鮮緑岩	109		21U-11a	16-20		
	Ⅲ-C	10.5	4.0	2.3	275.0	頭部	粗面安山岩	6		21U-11a-23	16-22	敲石に転用	○
21U-11b	Ⅱ	4.8	3.0	0.8	13.2	柄部破片	粘板岩		107	21U-11b-Ⅱ	16-21		
	Ⅱ	5.0	3.5	2.5	57.6	胴部	頁岩	16		21U-11b-87	16-25		○
21U-11c	Ⅱ-A	7.0	6.0	4.0	232.8	頭部	石英安山岩	51	有頭	21U-11c-2	16-23		○
21U-11d	Ⅱ	7.5	2.5	0.5	13.4	柄部破片	頁岩		26	21U-11d-Ⅱ	17-3		○
	Ⅱ	6.9	3.9	0.6	33.0	胴部	頁岩	108		21U-11d-Ⅱ	17-4	有頭	○
21U-12a	Ⅱ-B-1	4.3	1.5	0.4	1.8	頭部破片	粘板岩		23	21U-12a-Ⅱ	17-5	文様有	
	Ⅴ	4.4	3.4	2.4	63.3	柄部	緑簾片岩		17	21U-12a-Ⅱ	17-2		
	Ⅴ	9.3	2.4	1.4	36.3	柄部	砂岩		50	21U-12a-Ⅱ	16-26		
	Ⅲ-A-1	9.4	3.7	1.6	96.6	頭部	緑泥片岩		143	21U-12a-Ⅱ	16-24		
	Ⅰ-A-1	8.1	5.6	5.3	391.0	頭部	鮮緑岩	25	有頭	21U-12a	17-6		

遺物番号 グリッド	形 状	長×幅×厚（cm）				残存部	石 材	旧台帳No.		旧遺物番号	図No.	備 考	被熱
								石棒	石剣				
21U-12a	Ⅱ	5.5	2.5	2.6	63.9	胴部	緑簾片岩	61		21U-12a-Ⅳ	17-1		
21U-12b	Ⅱ-A-1	13.5	4.8	2.3	153.7	頭部	緑泥片岩		94	21U-12b-Ⅲ	17-8		○
21U-12c	Ⅳ	10.5	2.0	2.0	53.1	柄部破片	粘板岩		67	21U-12c-Ⅱ	17-7		
21U-12d	Ⅲ	4.6	2.8	1.1	19.5	柄部	簾岩		100	21U-12d-Ⅱ	17-9		
	Ⅴ	6.2	3.0	2.2	66.7	柄部	頁岩		33	21U-12d-10	17-11	21と同一個体	○
21U-13b	Ⅲ	3.7	4.0	1.6	41.1	胴部	粗面安山岩	127		21U-13b-Ⅱ	17-10	砥石	
21U-14c	Ⅱ	9.0	5.4	2.1	122.8	柄部	緑簾雲母片岩		46	21U-14c-156	17-12		○
	Ⅱ	9.9	4.8	2.1	95.8	胴部	粘板岩	129		21U-14c-282	17-13		
21U-15a	Ⅴ	3.8	5.5	0.9	22.2	柄部破片	頁岩		28	21U-15a-32	17-14	打製石斧に転用	
	–	–	–	–	–	柄部破片			75	21U-15a-91		計測不能	○
	Ⅱ	7.3	4.0	0.8	29.3	柄部破片	頁岩		106	21U-15a-Ⅱ	17-19		○
	Ⅱ	12.5	2.8	2.5	177.4	胴部	紅簾石英片岩	57		21U-15a-89	17-15	敲石	
21U-15b	Ⅴ	8.7	3.0	1.5	66.4	柄部	頁岩		21	21U-15b-1	17-16		○
	Ⅴ	8.6	1.5	1.2	15.1	柄部破片	砂岩		24	21U-15b-4	17-17		
	Ⅴ-A-1	9.0	2.5	0.7	11.5	柄部破片	頁岩		27	21U-15b-Ⅱ	17-21		○
	Ⅱ	6.5	2.3	0.5	9.7	柄部破片	砂岩	38		21U-15b-Ⅱ	17-18	J-21-38と同一個体	
	Ⅰ	7.8	12.3	5.7	734.0	胴部	石英安山岩	33		21U-15b-121	17-26		
21U-15c	Ⅱ	5.0	2.7	0.4	5.9	柄部破片	頁岩		116	21U-15c-Ⅱ	17-20		○
21U-15d	Ⅱ	7.0	5.5	1.5	104.9	柄部	緑簾雲母片岩		55	21U-15d-87	17-22		○
	Ⅲ	11.6	3.7	1.3	105.6	柄部	片麻岩		85	21U-15d-141	17-23	黒色化	○
	Ⅱ	7.8	5.0	0.9	43.2	柄部破片	石英片岩		87	21U-15d-162	17-25		○
	Ⅱ	6.5	3.2	0.9	32.0	柄部破片	緑泥片岩		113	21U-15d-Ⅱ	17-24		
21U-16a		15.0	3.5						30	21U-16a-90			
	Ⅱ	5.4	2.6	2.1	23.0	胴部	粘板岩	31		21U-16a	17-27		
	Ⅱ	14.0	3.9	1.8	146.7	胴部	粘板岩	32		21U-16a-65	18-1	41と同一岩質	
21U-16b	Ⅲ-C	5.0	2.5	0.6	13.4	柄部			19	21U-16b-Ⅱ	18-2		
	Ⅱ	4.5	3.3	0.9	11.8	柄部破片	頁岩		130	21U-16b-Ⅱ	18-4		○
21U-16c	Ⅴ	4.5	2.9	1.6	26.0	柄部	頁岩		142	21U-16c	18-3		○
	Ⅱ	5.0	3.0	1.0	31.3	柄部	頁岩		68	21U-16c-Ⅱ	18-5		○
	Ⅱ	10.5	8.5	1.0	99.2	柄部	緑簾雲母片岩	53		21U-16c-99	18-6	46・55と同一個体	○
	Ⅱ	8.0	4.0	3.2	282.3	胴部	紅簾片岩	18		21U-16c-105	17-28		○
21U-16d	Ⅲ	13.2	3.9	1.4	117.4	柄部	砂岩		91	21U-16d-57	18-7		
		5.0	4.3	2.6	98.2	破片		99		21U-16d-2			
22U-1a	Ⅱ	8.5	4.0	1.0	59.3	破片	緑簾片岩	8		22U-1a-Ⅱ	18-8		
	Ⅱ	16.2	3.3	1.6	80.6	胴部		29		22U-1a-Ⅱ	18-10	報告286-2	
22U-1b	Ⅲ	9.1	3.2	2.1	94.4	柄部	砂岩		2	22U-1b-5	18-11	敲石に転用	
	Ⅲ	11.3	3.5	2.6	148.6	柄部	頁岩		5	22U-1b-1	18-12	石棒	
22U-1d	Ⅱ-B-2	4.1	2.5	0.8	11.6	頭部	粘板岩		124	22U-1d	18-9	三角文	
22U-2a	Ⅲ	5.5	2.5	0.6	10.6	柄部			18	22U-2a	18-29		○
22U-3a	Ⅲ	12.0	3.9	1.1	87.6	柄部破片	緑泥片岩	12		22U-3a-Ⅱ	18-13		
		11.5	5.8	2.8	82.8	胴部		98		22U-3a			
22U-3b	Ⅲ	14.5	3.8	2.3	250.4	柄部	蛇紋岩		6	22U-3b-1	18-14		
	Ⅱ	4.5	3.5	3.0	44.6	胴部	安山岩	22		22U-3b-Ⅱ	18-15		
22U-3d	Ⅰ	13.0	5.5	3.3	308.7	胴部	緑泥片岩	121		22U-3d-Ⅱ	18-16		
22U-5b	Ⅲ	8.0	3.2	1.0	29.9		粘板岩		80	22U-5b-40	18-26	打製石斧に転用	
22U-5c	Ⅱ	3.8	2.5	1.5	19.5	頭部	粗面安山岩	119		22U-5c-Ⅱ	18-17	敲石に転用	
22U-5d	Ⅴ-B-1	13.9	2.5	2.3	38.9	頭部	粘板岩		43	22U-5d-59			
22U-6d	Ⅴ-D	2.5	2.7	1.0	14.2	頭部	緑泥片岩		34	22U-6d-Ⅱ	18-18	文様有	
22U-7b	Ⅴ	8.3	4.3	1.7	114.2	柄部	緑泥片岩		44	22U-7b-Ⅲ	18-20		
22U-9a	Ⅱ	5.0	3.5	1.2	38.9	頭部破片	緑泥片岩		41	22U-9a-Ⅱ	18-19		
22U-9a	Ⅱ	7.8	3.4	1.3	28.9	柄部破片	頁岩		129	22U-9a-Ⅱ	18-21	黒色化	○
22U-9b	Ⅴ	4.0	3.5	2.0	41.6	柄部	砂岩		37	22U-9b-Ⅱ	17-29	砥石に転用	
22U-9c	Ⅴ	6.0	3.5	1.0	34.5	柄部破片	緑泥片岩		39	22U-9c-Ⅱ	18-24	砥石に転用	
	Ⅲ	8.0	2.5	1.5	67.4	胴部	粘板岩	21		22U-9c-Ⅱ	18-23	4片　31と同一個体	○
	Ⅲ	4.0	5.5	2.3	58.4	胴部	輝緑岩	117		22U-9c-Ⅱ	18-22		
22U-10a	Ⅴ	7.8	2.9	1.9	71.3	柄部	緑泥片岩		32	22U-10a-Ⅲ	18-25		
22U-10c	Ⅱ-B-1	8.0	2.6	1.3	19.6	頭部	黒色珪質頁岩		16	22U-10c-Ⅱ	18-27	文様有	
22U-13a	Ⅳ-D	7.4	2.3	1.5	33.7	頭部	緑簾片岩		78	22U-13a-64	17-30	剣型	○
22U-13b	Ⅱ-A	10.0	5.5	3.8	312.8	頭部	緑泥頁岩	56	有頭	22U-13b-3	18-28		
22U-13c	Ⅲ	3.0	4.0	1.5	25.8	柄部	石英安山岩		57	22U-13c-Ⅱ			○
22U-13d	Ⅳ	13.7	3.4	1.9	111.1	柄部	粘板岩		13	22U-13d-33			
22U-14d	Ⅱ-B	4.8	2.6	0.8	18.7	頭部	頁岩	118		22U-14d-Ⅱ		赤化・Ⅰ字紋	○
22U-16d	Ⅱ-A	5.8	2.6	0.9	29.2	頭部	緑簾片岩	120	有頭	22U-16d-Ⅱ	18-30		
22U		6.0	2.7	1.7	72.7	胴部	泥岩	100		22U		敲石に転用	
23U-1a	Ⅱ	13.1	3.0	0.9	37.8	破片	頁岩	124		23U-1a	18-32		
21V-2c	Ⅱ-C	32.1	4.0	4.2	1270.7	完形	緑泥片岩	13		21V-2c-95		報告285-8	
21V-3c	Ⅲ	4.8	3.8	0.3	11.6	柄部破片	粘板岩		109	21V-3c-Ⅳ			
	Ⅱ	13.8	2.5	2.5	147.7	柄部	頁岩		9	21V-3c	18-33		

遺物番号 グリッド	形 状	長×幅×厚（cm）				残存部	石 材	旧台帳No.		旧遺物番号	図No.	備 考	被熱
								石棒	石剣				
21V-3c	Ⅱ	2.4	2.4	0.7	5.8	柄部破片	頁岩		112	21V-3c	19-1		○
	Ⅱ	7.4	5.1	3.9	248.0	胴部	緑簾片岩	27		21V-3c-183	19-2	磨石・凹石に転用	
21V-3d	–	3.4	2.5	0.4	3.8	柄部破片	頁岩		135	21V-3d-Ⅱ	19-4		○
		8.4	3.0	1.5	80.6	胴部		91		21V-3d			
21V-4a	Ⅱ	10.2	2.2	1.7	64.3	破片	頁岩	81		21V-4a-6			○
21V-4b	Ⅱ-A	5.6	3.5	1.8	49.1	胴部	砂岩	55		21V-4b-74	19-5		
21V-4c	Ⅲ-C	5.5	2.8	1.1	26.9	頭部	砂岩		36	21V-4c-Ⅱ	19-6	砥石に転用	
	Ⅱ	6.0	2.7	1.0	22.2	柄部破片	粘板岩			21V-4c-Ⅱ	19-7		
		6.5	2.6	1.1	28.3	破片	緑色珪質頁岩	79		21V-4c		一部煤付着	
21V-7c	Ⅱ	10.8	3.8	2.3	119.7	胴部	粘板岩	41		21V-7c-109	19-9		
	Ⅱ	5.0	3.5	1.0	30.5	破片	緑泥片岩	43		21V-7c-Ⅲ	19-8		
	Ⅰ	3.1	6.6	2.2	58.3	胴部	粗面安山岩	101		21V-7c	19-3		
21V-7d	Ⅱ-A	47.0	4.0	4.0	1314.9	完形	緑泥片岩	12		21V-7d-2		報告284-10	
21V-8a	Ⅴ-C	8.3	3.2	1.6	56.2	頭部	緑泥片岩		69	21V-8a-87	19-10	剣型	
	Ⅴ-C	5.4	3.4	1.2	40.7	頭部	輝石安山岩		70	21V-8a		砥石に転用	
	Ⅱ	6.8	3.4	0.7	12.2	柄部破片	石英片岩		90	21V-8a	19-11		○
	Ⅱ-B	5.5	4.5	4.1	118.0	頭部	緑簾雲母片岩	69		21V-8a	19-12	赤化	○
	Ⅴ	8.5	3.3	3.1	163.8	頭部	輝緑岩	70		21V-8a	19-13		
21V-8b		4.5	6.1	2.0	83.4	胴部	粗面安山岩	105		21V-8b-1	19-17	打製石斧	
	Ⅱ	14.5	4.0	2.0	137.8	胴部	緑色珪質頁岩	49		21V-8b-5	19-15	先端部被熱黒色	
	Ⅱ-A-1	8.0	5.0	3.5	305.7	頭部	緑泥片岩	50		21V-8b-97	19-14		
21V-8d	Ⅲ-A-2	7.5	3.3	1.5	62.5	頭部	紅簾片岩	44		21V-8d-Ⅲ	19-16		
21V-10c	Ⅱ-B	6.5	3.0	2.0	88.6	頭部	黒色珪質頁岩	14		21V-10c-1		報告286-63	
21V-11a	Ⅴ-A-1	13.2	5.0	2.3	275.4	頭部	緑泥片岩		51	21V-11a-2		報告288-14	
	Ⅱ	6.0	4.4	1.4	52.4	胴部	紅簾片岩	103		21V-11a-Ⅲ	19-19		
21V-12a	Ⅱ-B-1	5.1	3.1	0.9	14.2	頭部	粘板岩		72	21V-12a-185	19-20		
21V-12b	Ⅲ	32.3	3.7	2.2	44.8	胴部	緑泥片岩	52		21V-12b-190	19-21	敲石に転用	
21V-12c	Ⅱ-A-1	9.9	3.6	0.5	23.5	頭部	頁岩		74	21V-12c-111	19-22	31と同一個体	○
	Ⅲ	3.4	1.9	0.4	3.2	柄部破片	石英片岩		86	21V-12c-145	19-23		○
	Ⅱ	7.3	3.1	1.0	32.7	胴部	黒色珪質頁岩	47		21V-12c-64	19-25		
	Ⅱ	6.0	3.5	3.0	58.9	胴部	緑泥片岩	46		21V-12c-Ⅲ	19-24		
21V-12d	Ⅲ	6.0	3.5	1.5	43.2	胴部	緑色珪質頁岩	60		21V-12d	19-26		
21V-15c	Ⅱ	16.1	3.2	1.2	98.0	柄部破片	頁岩		136	21V-15c-Ⅱ	19-28		○
21V-16a	Ⅲ	5.1	3.3	1.0	22.3	胴部	頁岩	104		21V-16a-Ⅳ	19-31		
	Ⅱ	9.5	4.9	1.2	81.8	胴部	頁岩	106		21V-16a-Ⅳ	19-30		○
21V-16b	Ⅲ	7.3	3.0	1.6	77.1	柄部破片	緑泥片岩		114	21V-16b-Ⅳ	19-32		
21V-16c	Ⅱ	7.8	4.7	0.8	44.0	胴部	頁岩	107		21V-16c-Ⅳ	19-29		○
21V-16d	Ⅱ	5.3	4.6	2.5	99.5	胴部	紅簾雲母片岩	102		21V-16d-Ⅳ	20-1		
22V-1a	Ⅱ-C	7.0	2.0	1.8	115.5	頭部	紅簾片岩	19	無頭	22V-1a-41	20-2	敲石	
22V-1d	Ⅲ-B	18.0	3.0	1.9	171.1	頭部	黒色珪質頁岩	35		22V-1d-1	20-3	石剣・Ⅰ字紋	
22V-2a	Ⅴ	6.3	2.7	1.5	39.8	柄部	頁岩		15	22V-2a-7	19-33	赤採	○
	Ⅱ	5.0	5.5	2.5	113.6	破片	粗面安山岩	5		22V-2a-8	20-4		
22V-3c	Ⅱ-A-1	9.7	3.1	2.4	118.1	頭部		95		22V-3c		報告287-15	
	Ⅲ	5.4	4.0	2.4		胴部		100		22V-3c	20-12		
22V-3d		7.5	3.5	2.0	76.3	胴部		83		22V-3d-Ⅱ			
22V-5a	Ⅲ	6.7	3.6	1.1	53.5	柄部	緑泥片岩		140	22V-5a-Ⅱ	20-5		
22V-5b	Ⅲ	8.4	2.4	0.4	12.7	柄部破片	石英片岩		84	22V-5b	20-6		
	Ⅱ-A-1	6.5	3.3	2.3	126.3	頭部	緑泥片岩	45	有頭	22V-5b-Ⅲ	20-7		
22V-5c	Ⅴ-D	21.4	3.3	1.8	196.9	完形	粘板岩		47	22V-5c-4		報告286-16	
	Ⅴ	15.0	3.1	2.0	154.9	柄部	緑泥片岩		48	22V-5c	20-8		
22V-8a	Ⅲ-C	12.3	2.1	1.7	60.7	柄部破片	流紋岩		125	22V-8a-Ⅲ	20-9		
22V-9b	Ⅱ	6.9	3.3	0.7	25.4	柄部破片	頁岩		108	22V-9b-Ⅳ	20-10		○
		6.0	3.3	1.8	64.8	破片	緑泥片岩	85		22V-9b-67			
22V-9c	Ⅱ	9.7	3.4	1.5	98.9	胴部	砂質頁岩	48		22V-9c-62	19-18		
22V-10b	Ⅱ	11.2	4.7	2.1	201.7	胴部	緑泥片岩	66		22V-10b-1	20-13	片面煤黒色化	
22V-13d	Ⅲ	7.9	3.8	1.2	62.0	柄部破片	緑泥片岩		82	22V-13d-Ⅱ		打製石斧に転用	
22V-14b	Ⅲ-A-2	6.3	3.9	0.8	23.8	頭部	砂岩		139	22V-14b-Ⅳ	20-11	砥石	
22V-15a	Ⅴ-B-1	22.5	4.2	2.3	310.5	完形	緑泥片岩		81	22V-15a-1		報告286-20	
22V-15b	Ⅱ	8.8	3.1	1.4	66.3	破片	緑簾片岩	123		22V-15b	19-27		
	Ⅱ-A-2	27.3	3.3	2.6	364.3	完形	黒色珪質頁岩	65		A-519-57		報告285-11	
	Ⅱ	14.7	3.8	3.4	322.6	胴部	砂質頁岩	72		A-519-206		報告288-17　敲石に転用	
22V-15c	Ⅱ-A-1	6.6	2.8	2.2	45.6	頭部	黒色珪質頁岩	71		22V-15c-1		報告288-21	
22V	Ⅱ-B-1	5.2	2.2	0.8	12.7	頭部破片			127	22V	20-14		
表採	Ⅴ	8.4	8.4	1.6	82.1	柄部	緑泥片岩		56	表採	20-15		
	Ⅴ-B-1	15.6	3.6	2.3	175.0	頭部	緑泥片岩	116		表採		報告286-26	
-12d	Ⅱ	7.5	4.7	3.5	208.0	胴部	粗面安山岩	122		-12d-3	20-16		

水洗・注記段階で石棒・石剣に便宜的に分け台帳記載を行っているため、分類は厳密なものではない。他の遺物に器種変更のものもあり、計測値が漏れている物がある。原則、細片を除いて実測・トレースを行った。